

地方史情報 147

2021年1月

地方史研究雑誌目次速報 飯澤文夫 編

*本誌に掲載した雑誌に関するお問い合わせは、発行元に直接お願いします。

北海道	1	長野県	30	広島県	49
青森県	3	静岡県	34	山口県	50
秋田県	3	愛知県	36	徳島県	51
山形県	4	三重県	37	愛媛県	52
福島県	4	滋賀県	37	福岡県	53
栃木県	5	京都府	38	佐賀県	54
群馬県	6	大阪府	38	長崎県	54
千葉県	8	兵庫県	42	宮崎県	55
東京都	14	奈良県	46	鹿児島県	55
神奈川県	23	和歌山県	46	沖縄県	57
新潟県	27	島根県	47	寄贈図書	58
富山県	30	岡山県	48		

北海道

◆屯田 北海道屯田倶楽部

〒063-0037札幌市西区西野七条9-7-5 TEL011-676-6145

年3000円 1985年創刊 <https://tonden.org/>

◇68 2020.11 B5 80p 1000円

表紙絵図 屯田兵屋火災再築費支出の上奏文（明治30年、国立公文書館所蔵）

巻頭言 後藤良二さんのご逝去を悼む

若林 滋

新琴似安春川物語 後藤良二会長の著作集より

新琴似地区における宅地の変遷

茨城大学教育学部人文地理学 野口奈々美・野田侑加・兼岡真子・石川さやか・牛込佳太・小林未知

- 杜甫の「兵車行」と屯田兵 田澤 道雄
 屯田兵のデザイン考 新琴似「若松館」図面（劇場開設願）
 兵村に空前の歌舞伎ブーム
 古地図の散歩道 三国通覧図説蝦夷国全図
 林子平・天明5(1785)年頃作成・縦55cm横97cm（国立国会図書館所蔵）
 日本の地図の精度と近代化 江口 憲人
 屯田ルーツ情報 新史料 武士道新衛生呼吸静座術／消息情報 北一
 已・塚田半次郎氏、東和田・大野綏定氏、野付牛屯田兵、南江部乙・
 岡本亀次郎氏
 表紙から 古文書録 兵屋再築費支出の奏上書（国立国会図書館所蔵）
 記・梶田博昭
 屯田兵の「食」に関する一考察 武石 詔吾
 一節抜粋 有馬尚経著『屯田兵とは何か』（E）、北国諒星著『福井県
 と北海道の縁』（K）
 えぞ地開拓の草分け 高畑利宜（下） 北国 諒星
 フィクションに織り込まれた真実 （K）

◆文化情報 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目 かでる2・7ビル9階

Tel011-271-4220 <http://hokkaido-bunkazai.jp>

◇381 2020.11 A4 8p

- 道北の建築遺産百年 旧丹波屋旅館和館・洋館（中頓別町） 杉山 友和
 道文化財保護功労賞 2個人1団体 野村武雄氏（札幌市）／岡田光弘
 氏（洞爺湖町）／NPO法人 伝成館まちづくり協議会
 重要文化財の答申 旧札幌控訴院庁舎
 親子化石発掘体験ツアー 好天・好活動・好評
 北海道開拓使と稲作 舟山 廣治
 シリーズ・伝える 「日向神代神楽」が再び社を舞う 工藤 朝博
 まちのイチョシ 浦幌町のアイヌ墓地と副葬品展示が語るもの 持田 誠
 第1回文化財講演会 むかわ町の天然記念物 櫻井 和彦
 博物館ひろば 縄文時代から現代までの歩みを知る
 地域に根ざす余市水産博物館 小川 康和
 産業考古学会から産業遺産学会へー発展的変更と課題 山田 大隆

青 森 県

◆八戸地域史 八戸歴史研究会（発行：伊吉書院）

〒039-1164八戸市下長2-7-19 三浦忠司方 ℡0178-38-7376 1982年創刊

◇57 2020.10 A5 52p 800円

口絵 八戸城古御殿御絵図面の御鍵間 「古御殿御絵図面写し」（八戸

市立図書館所蔵八戸南部家文書）の御鍵間

八戸城古御殿御書院および新御殿表御書院に関する考察

中村 泰朗

八戸藩勘定所日記に表れた農民の潰、禿について

松ヶ崎憲治

奥州南部流鎬馬史(5)―八戸藩加賀美流流鎬馬の再興報告

黄綿 昶行

みじか史

山内家ファミリーヒストリー

山内 文子

八戸市の住居表示の歴史

おりかわかおる

書評 本田伸著『シリーズ藩物語 八戸藩』

三浦 忠司

秋 田 県

◆北方風土 北方風土社

〒019-1541仙北郡美郷町土崎字上野乙1-254 森本彌吉 ℡0187-85-4027

1980年創刊

◇79 2020.10 A5 125p 2000円

院内大蔵観音の歴史と文化・祭礼―岩手・雫石との関わりを含めて 小田島清朗

秋田県初の旧石器遺跡発見の功労者は誰か

―大仙市協和の米ヶ森遺跡をめぐって

神宮 滋

コト八日とヤサラ

「やすらい祭」と片目は「左眼の一眼」

「二月八日」と「重二月(じゅうにがつ)八日」

松橋 由雄

『後三年記』・『康富記』から探る成衡像

加藤慎一郎

常陸江戸氏研究(2)

別系なのに同一視「大中臣姓那珂氏」と「藤原姓那珂氏」

那珂 通義

中世三棟札と地域の歴史研究―大仙市神宮寺八幡神社

神宮 滋

「地震 雷 火事 おやじ」とはなにか

稲 雄次

書評 神宮滋著『名族佐竹氏の神祇と信仰』

常陸・秋田時代に奉じた神々

小山 昭一

自著紹介 『ナマハゲを知る辞典』(2019年12月25日刊)

稲 雄次

あいねさらさらこがねさらさら～痛い痛い飛んで行け

松橋 由雄

山 形 県

◆山形民俗 山形県民俗研究協議会

〒990-0055山形市相生町2-10 岩鼻通明方 TEL023-623-5687 1987年創刊

◇34 2020.11 B5 98p 700円

イザベラ・バードが受診した日と町、そして医師と宿

一旅と旅行記を科学する	金坂 清則
酒田山王祭と新庄祭の傘鉦について	菊地 和博
庄内藩三方国替えによる鳥海山大物忌神社の関わりについて	花井 紀子
置賜地域に齎された仏像の仏師たち	渡邊 敏和
置賜のサンガ〜入田沢では移動する山仕事従事者をサンガと呼ぶ	清野 春樹
月山掛け小屋の現地調達の食材について	渡辺 幸任
「弥事聞書 七」翻刻と解説	小田純市／岩鼻通明

◆米沢史学 米沢史学会

〒992-0025米沢市通町6-15-1 山形県立米沢女子短期大学日本史学科内
TEL0238-22-7330

◇36 2020.10 A4 208p

文久〜慶応前期、東国情勢下における仙台藩の政治的位置に関する一

考察一藩主伊達慶邦を中心に	竹ヶ原康佑
天台僧一相坊円海の時代	山口 博之
城柵と唐の辺境支配	吉田 敏
文部省育英事業調査にみる育英観の転換	
一高等教育重視から小学校薄優良卒業者の不進学問題へ	布施 賢治
中世村落における小領主と宮座一畿内・南九州及び東国の事例から	藺部 寿樹
書評 高橋裕文『中世東国の村落形成—中世前期常陸国を中心に』	藺部 寿樹
史料紹介	
笹野観音堂史料に関する研究(1)	笹野観音堂史料研究会
『看聞日記』現代語訳(19)	藺部 寿樹

福 島 県

◆フークトープ通信 フークトープ通信社

〒960-8021福島市霞町9-38 メゾン吉川12号室 山田英明方 2015年創刊

◇35 2020.8 A4 2p

歌人並木秋人の短冊 菅野 俊之

◆福島県史料情報 福島県文化振興事業団

〒960-8116福島市春日町5-54 TEL024-534-9193 2002年創刊

<http://www.history.fcp.or.jp>

◇58 2020.10 A4 4p

中合の記念絵葉書について 大正2年(1913)10月1日付福島市中村合名

会社移転記念絵葉書(関口守正氏寄贈資料17①)	渡邊 智裕
檜枝岐村の媼が会津藩へ献上した手織りの布	渡邊 智裕
近世の若者らの行動力と自律性	小野孝太郎
疫神を送り出す神事「神送り」の事例	小野孝太郎
東蒲原郡の新潟県移管と旧会津藩士族授産事業	山田 英明
都々逸「国勢調査」	山田 英明

栃 木 県

◆那須文化研究 那須文化研究会

〒329-2752那須塩原市三島5-1 那須野が原博物館 TEL0287-36-0949

1987年創刊

◇34 2020.12 B5 164p

栃木県大田原市城館分布調査報告(2) 大田原城の構造とその遺構	山川 千博
人見伝蔵がしたための「原方街道訴訟」	中山 晶壹
戦国期大田原氏の展開—大田原綱清について	重藤 智彬
那須地方における近江日野商人—下野黒羽を中心に	小林 聖夫
〈那須塩原市黒磯地区プロジェクト調査報告書〉	
「黒磯北部の戊辰戦争」再調査報告・前編	高根沢広之
「百年之計」碑文の読解とそこから見えてきたもの	大沼 美雄
黒磯出身の日本画家須藤侶雲について	渡邊 泉
市民を主体とした那須資料ネットの設立と経緯	金井忠夫／作間亮哉
大名家文書(大関家文書)は語る(19)—献納金請取状	新井 敦史
地方文書は語る(19)—種穀拝借歎願書について	高根沢広之
新刊紹介 『明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～ 公式	
ガイドブック』編集発行: 那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会	
／『語りべが書いたしおばらの民話』著者: 塩原のかたりべ編	中村 悟
那須地区通信	
那須塩原市 西那須野地区	多和田潤治／坂本美月

那須塩原市 黒磯地区
 那須塩原市 塩原地区
 大田原市 大田原地区
 大田原市 湯津上地区
 大田原市 黒羽地区
 那須町

小松 佳史
 君島 守
 重藤 智彬
 宮澤 友美
 大高 純一
 作間 亮哉

栃木県文献一覧(2019追録)(2020)

◆歴文だより 栃木県歴史文化研究会会報

〒320-0865宇都宮市睦町2-2 栃木県立博物館内 TEL028-634-1313
 年4000円 1991年創刊

◇117 2020.11 A4 4p

《特集 栃木の歴史、新発見》

発見！足尾の中世 足尾銅山以前／足尾原村文書が示す足尾郷／足

尾原村文書からわかる新事実

江田 郁夫

藤原秀郷と武士成立論の再考

山本 享史

「日本山神宮重修図」にみる近世の東照宮の改修

飯塚 真史

維新期の短銃使用の様相

小柳 眞弓

群馬県

◆ぐんま地域文化 群馬地域文化振興会

〒371-0801前橋市文京町3-27-26 群馬県立文書館内 TEL027-226-6246
 1993年創刊 <http://www.asahi-p.co.jp>

◇55 2020.10 AB 36p 300円

《上野国分寺と周辺の地域特集》

歴史を掘る 国宝決定 綿貫観音山古墳出土品

深澤 敦仁

新型コロナウイルスを乗り越える

右島 和夫

発掘情報 上野国分尼寺跡調査の最新成果

田辺芳昭／金子智一

ぐんまの歴史入門講座

第213講 上野国分寺とその遺跡

一創建の意義と発掘調査の成果をめぐって

前澤 和之

第214講 大蔵坊の中世文書

久保田順一

第215講 冷水町の稲荷神社と大日堂

依田 初雄

第216講 「角一」住谷家の人々と蚕種業

手島 仁

第217講 高崎市国府地区の石造文化財 石造文化財の見方(44)

秋池 武

- 史料紹介 感染症の流行と国分寺の創建 関口 功一
 古文書解読入門講座(42)―古文書から歴史を読む 近世初期惣社領北
 原村の新田開発―「惣社領北原村古記録集」を読む 関口 莊右
 地域づくりと文化遺産 上野国分寺まつり 鬼形 芳夫
 ぐんまの人物誌 稲荷台の歴史と人物 富所洋一郎
 ぐんまのくらしと民俗 妙見様の歴史と祭り 松田 直弘
 史跡をめぐる 北谷遺跡の豪族居館跡 田辺芳昭／秋本太郎
 研究・学習サークル活動紹介 上野国分寺遺跡愛好会 住谷 芳朗
 地域文化Q&A 上野国分寺の文字瓦 地名や人名が書かれていると
 聞いたのですが？／人名に動物の名前も使われていたのですか？ 松田 猛
 博物館・資料館訪問 小野国分寺館
 群馬大学教育学部四年 岡田萌／宮健人／水落建哉
 一枚の写真から… 吉井駅前秋山運送店(高崎市吉井町) 久保信太郎
 上州の関所と番所(1) 関東御要害と上野国の関所 岡田 昭二
 礫石経の世界(1) 「礫石経以前にさかのぼる」のこと 唐澤 至朗
 ぐんまの自然と風土 国府の人参と白菜の歴史 眞塩 光枝

◆群馬文化 群馬県地域文化研究協議会

〒372-0831伊勢崎市山王町38-38 前澤和之方 年4000円 1957年創刊

<http://blogs.yahoo.co.jp/gunmabunka/>

◇340 2020.8 A5 94p

- 戦国期上野沼田氏系赤見氏の基礎的考察 赤見 初夫
 道の駅 川場田園プラザ
 ファーマーズマーケットをめぐる高齢者の楽しみとその実態 鈴木 英恵
 群馬県における医療の近代化と山崎泰輔
 一群馬県医学校長の日記から近代化の道程を探る 須長 泰一
 動向 日本遺産「里沼」認定と沼辺文化を活かした新しいまちづくり
 館林市教育委員会文化振興課(館林市日本遺産プロジェクト)
 群馬の歴史的建造物(1) 寺院建築の見方 村田 敬一
 新刊紹介
 篠木れい子著『群馬の方言―その開く世界―』 藤井 浩
 阿部利夫著『清水越の歴史』 藤井 茂樹
 口絵 綿貫観音山古墳出土の金銅心葉形杏葉
 一群馬県立歴史博物館蔵品資料(141) 飯田 浩光

◆群馬歴史散歩 群馬歴史散歩の会

〒379-2154前橋市天川大島町317-1 TEL027-223-2785

年4500円 1973年創刊 <http://www16.plala.or.jp/kuzira226/>

◇264 2020.10 A5 56p

口絵 松平大和守家廟所(川越・喜多院)

玉村八幡宮の方位について考察

天狗党と高崎藩

群馬の鉾山 第三回 西ノ牧鉾山編(2)

群馬歴史散歩クイズ三十問(3)

もう一つの先祖書

史蹟「幸手義賑窮餓之碑」を読む

旅のトラブルも思い出に(5) 「青森の縄文と自然探勝」

井野 修二

片山 壹晴

服部 瑛

本多 優二

井野 修二

松田 猛

北爪 隆雄

山崎 正

◆武尊通信 群馬歴史民俗研究会

〒372-0033伊勢崎市本町5226-12 永島政彦方 TEL0270-32-9070 1979年創刊

◇164 2020.12 B5 8p

愛媛からもたらされた新田氏研究—遠方研究者間交流とその背景

沼田まつりのマンドの巡行

伊勢崎藩酒井家の参勤交代の行程について

農村における鉄骨建築の地域的展開

新刊紹介

今井昭彦著『近代群馬と戦没者慰霊』

松田猛著『山王廃寺は放光寺』

短 信

都丸九十一資料の現在

コロナ禍の館林市木戸町深諦寺での祭礼事例

大野 秀彰

市東 真一

竹内 励

永島 政彦

永島 政彦

長谷川明則

武藤 直美

井坂 優斗

千 葉 県

◆我孫子市史研究センター会報

〒270-1132我孫子市湖北台5-15-17 岡本方 TEL04-7149-6404

<http://abikosisiken.main.jp>

◇221 (通528) 2020.10 A4 10p

歯車が一つ回った! つぎは…—文書収蔵の動き

古文書解説日曜部会 10月の活動報告 「天保14年 道中日記帳」

古文書解説火曜部会 10月の活動報告

東 日出夫

中村 千由

- 「文化元年 御野馬捕人足御赦免願一件扣」 永長 治夫
 井上家文書研究部会 10月活動報告 白神 正光
 合同部会 10月の活動報告 山本 包介
 歴史部会 9月の活動報告 第47回研究講座、第48回研究講座 逆井 萬吉
 歴史探訪部会 10月の活動報告 我孫子市周辺 長谷川秀也
 古代史研究グループ 10月の活動報告 テーマ「弥生時代集落群の動態—横浜市鶴見川早淵川流域の弥生時代中期集落遺跡群を対象として」(安藤広道 1991) 中嶋 正義
- ◇222 (通529) 2020.11 A4 8p
 追悼 長谷川一顧問 岡本 和男
 根戸 川村一夫家を訪問しました 郷土資料センター推進会(東日出夫)
 古文書解読日曜部会 11月の活動報告
 「天保14年 道中日記帳」(旧布佐村「増田家惣兵衛文書」) 古内 和巳
 古文書解読火曜部会 11月の活動報告 柏市沼南島村 郁馬家文書
 「文化元年 御野馬捕人足御赦免願一件扣」 飯塚 健児
 井上家文書研究部会 11月活動報告 山崎 章蔵
 歴史部会 10月の活動報告 第48回研究講座 逆井 萬吉
 歴史探訪部会 11月の活動報告 沼南地区探訪 長谷川秀也
 合同部会 11月の活動報告 山本 包介
 古代史研究グループ 11月の活動報告 テーマ「大崎台遺跡群の履歴—印旛郡南岸地域における最初期農耕社会の動態」(杉山佑一 2004) 中嶋 正義

◆佐倉の地名 佐倉地名研究会会報

- 〒285-0843佐倉市中志津6-21-13 田中征志方 TEL043-489-7439
 年2000円 2012年創刊
- ◇25 2020.1 A4 12p
 志津の地名について(14) 田中 征志
 志津の小字「土引田(どびた)」 河内 政幸
 七曲の地名由来 武藤 敏子
 根郷地区の新しい地名 寺崎一丁目～六丁目 小川 眞資
 佐倉地区の地名「白銀ニュータウン」 小川 眞資
 公園地名由来シリーズ(2) 白井・千代田地区の公園 伊藤代々子/伊藤清
 宿内砦址は斯くして遺った 野村 忠男

◆史談八千代 八千代市郷土歴史研究会

〒276-0046八千代市大和田新田452-20 鈴木康彦方 TEL047-459-2506
年3000円 1976年創刊

◇45 2020.11 B5 169p

《特集 旧村神野の総合研究 そのⅠ・旧村保品の総合研究 そのⅡ》

特集 旧村神野の総合研究 そのⅠ

神野村の概要	田中 巖
神野の古代	田中 巖
神野の中世	
中村備中守親平と星名郷	遠山 成一
八千代市神野の新発見板碑群の調査概要	蕨 由美
神野の近世	
神野村の江戸初期の領主	菅野 貞男
八千代市神野の江戸初期の一石五輪塔	蕨 由美
明治6年の戸籍帳にみる神野村の家族構成	青田 博之
神野の民俗・年中行事と祭り	畠山 隆
神野の近代	
安藤佐五右衛門家(屋号ヒガシ)の系譜―旧家300年の歴史	菅原 賢男
神野村の明治七年「墓所繪圖書上帳」	蕨 由美
昭和10年「神野区勢一覧」からみる神野のすがた	青田 博之
神野の水神宮と土地改良一祀りと挑戦	小林 詔三
特集 旧村保品の総合研究 そのⅡ 保品の庚申塚群の石造物調査	蕨 由美
米本浅間講(割菱講)について(1)	鈴木 康彦
下高野の富士講資料・明治33年発行の免状は「割菱講」免状	蕨 由美
高木の万治3年銘庚申塔とそのスタイル「三猿三面彫塔」の広がり	蕨 由美
子之神神社考	田中 巖
「チバニアン(千葉の時代)」に学ぶ	山口 忠
新型コロナウイルス・COVID-19の感染拡大の記録(歴史に残る感染症の体験)	鈴木 康彦
記憶の小箱 時代小説『町人十萬石』の舞台に「保品」登場／『黄泉から来た女』内田康夫著に八千代市立郷土博物館、新川などが登場／八千代市が舞台になった映画『ゆずりは』／『広報 八千代』紙で沖塚遺跡などの歴史遺産、文化遺産を第一面に特集	田中 巖
歴史を楽しむ活動「歴史散策報告」	
亀戸七福神めぐり	松柴 慎吾
神野地区を歩く	山口 忠

◆千葉県立中央博物館研究報告

〒260-0852千葉市中央区青葉町955-2 TEL043-265-3111 1989年創刊

www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/

◇15-1 2020.3 A4 59p

3誌の統合について

望月 賢二

小糸川上流の蛇行州の増水による形態変化

岡崎浩子／大木淳一／中里裕臣

千葉県におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の生息状況

2001～2019年の変遷

矢竹一穂／秋川毅／古河淳

座礁した大型鯨類における寛骨および後肢痕跡の有用性の検討

宮川 尚子

粗面の担子胞子をもつ千葉県産ヒトヨタケ第3種の特徴と区別点

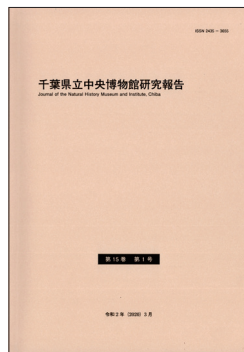
小倉豊史／吹春俊光

千葉県産の地衣類(10) 千葉県新産の *Chiodecton leptosporum*

坂田歩美／原田浩

屋根裏のお札に見る信仰—佐倉市坂戸 林重孝家の事例による

小林裕美／木原律子



＊千葉県立中央博物館は、「千葉県の自然と歴史に対する関心の深まりに応じて、自然誌を中心に歴史をも加えた博物館」として1989年に開館し、研究成果を公表する媒体に、『Natural History Research』、『千葉県立中央博物館自然誌研究報告』、『千葉県立中央博物館研究報告—人文科学—』の3誌を発行してきた。この度、『Natural History Research』は13巻2号(2015)、『千葉県立中央博物館研究報告—人文科学—』は13巻2号(2017)をもって廃刊し、2020年度から『千葉県立中央博物館自然誌研究報告』に統合して、誌名を『千葉県立中央博物館研究報告 Journal of the Natural History Museum and Institute, Chiba』に改めて継承することになった。

今後は、自然誌と人文科学(歴史学、考古学、民族学、民俗学、人文地理学、社会学、博物館学及び関連分野)の研究論文、調査資料を幅広く掲載するという。また、館外からの千葉県に関連する投稿も受け付けるとのことである。

広い視野から、自然誌と人文科学の融合した研究の発展を期待したい。

◆松戸史談 松戸史談会

〒270-0021松戸市小金原7-10-20 松田孝史方 TEL047-342-1764

年5000円 1961年創刊 <http://www.matsudoshidankai.net>

◇60 2020.11 B5 86p

《松戸史談会創立60周年》

松戸史談会六〇年の歴史を支え守り続けた先輩方に敬意と感謝
お祝いのことば

六〇周年を迎えて一この混沌とした時代に

松戸史談会創立六〇周年に寄せて

松戸史談会六〇年の歩み

一〇〇年目のパンデミック 西班牙風邪とほんやりした不安

関家文書で見る文化文政期の幸谷村

「更級日記」上洛千年紀

見沼と三つの氷川神社

宮古島から松戸、流山へ

日清戦争・日露戦争と松戸

松戸馬橋の自由民権運動家 東寧会 大川吉右衛門

歴史文書の保存と活用について

禅の教え一児童文学を手がかりに

第一話『ビルマの堅琴』・『二十四の瞳』

松田 孝史

本郷谷健次

伊藤 純一

藤谷 隆

編集委員会

古木 均

棚井 行隆

花輪 茂道

鈴木 恵治

田嶋 昌治

松田 孝史

川畑 光明

千代田光雄

石川 光学

松戸史談	
松戸史談会創立60周年 第60号	
目次	
松戸史談会六〇周年の歩み	1
松戸史談会六〇年の歩み	2
松戸史談会六〇年の歩み	3
松戸史談会六〇年の歩み	4
松戸史談会六〇年の歩み	5
松戸史談会六〇年の歩み	6
松戸史談会六〇年の歩み	7
松戸史談会六〇年の歩み	8
松戸史談会六〇年の歩み	9
松戸史談会六〇年の歩み	10
松戸史談会六〇年の歩み	11
松戸史談会六〇年の歩み	12
松戸史談会六〇年の歩み	13
松戸史談会六〇年の歩み	14
松戸史談会六〇年の歩み	15
松戸史談会六〇年の歩み	16
松戸史談会六〇年の歩み	17
松戸史談会六〇年の歩み	18
松戸史談会六〇年の歩み	19
松戸史談会六〇年の歩み	20
松戸史談会六〇年の歩み	21
松戸史談会六〇年の歩み	22
松戸史談会六〇年の歩み	23
松戸史談会六〇年の歩み	24
松戸史談会六〇年の歩み	25
松戸史談会六〇年の歩み	26
松戸史談会六〇年の歩み	27
松戸史談会六〇年の歩み	28
松戸史談会六〇年の歩み	29
松戸史談会六〇年の歩み	30
松戸史談会六〇年の歩み	31
松戸史談会六〇年の歩み	32
松戸史談会六〇年の歩み	33
松戸史談会六〇年の歩み	34
松戸史談会六〇年の歩み	35
松戸史談会六〇年の歩み	36
松戸史談会六〇年の歩み	37
松戸史談会六〇年の歩み	38
松戸史談会六〇年の歩み	39
松戸史談会六〇年の歩み	40
松戸史談会六〇年の歩み	41
松戸史談会六〇年の歩み	42
松戸史談会六〇年の歩み	43
松戸史談会六〇年の歩み	44
松戸史談会六〇年の歩み	45
松戸史談会六〇年の歩み	46
松戸史談会六〇年の歩み	47
松戸史談会六〇年の歩み	48
松戸史談会六〇年の歩み	49
松戸史談会六〇年の歩み	50
松戸史談会六〇年の歩み	51
松戸史談会六〇年の歩み	52
松戸史談会六〇年の歩み	53
松戸史談会六〇年の歩み	54
松戸史談会六〇年の歩み	55
松戸史談会六〇年の歩み	56
松戸史談会六〇年の歩み	57
松戸史談会六〇年の歩み	58
松戸史談会六〇年の歩み	59
松戸史談会六〇年の歩み	60

根本清水講を支えた商店の繁栄と現在

山室 功

小林一茶と東葛・馬橋

荒木 知

文化祭の芸能の部に出演して

荒井 千草

私の散歩道

井口 昭

「松戸史談会」に入会して

田島 泰史

短信 松戸市の人口が五〇万人に迫る／松戸市指定文化財の新指定

福昌寺の観音堂境内にある「庚申塔」が、市指定の文化財に指定されました。

*1960年に上野顕義、田村実、松下邦夫、米田春之、稲本雨林氏らによって設立され、60周年を迎えた。当初は4人の世話人を決め、輪番による世話人代表のもとで運営してきたが、1986年から会長制をとり、現在は松田孝史氏が就いている。江戸川を挟んで東京都に接する松戸市は、東京都市圏の利便性の高いベッドタウンとして49万の人口を擁するが、松田氏の巻頭文によれば、1960年当時は、人口8万6千人で、開発と都市化が急激に進み、自然や史跡などが次々と消滅したという。松戸史談会はそうした中で、市内の史跡や文化財などの歴史を調査、研究する目的で発足したものである。

市民に呼び掛けての市内を中心とする史跡めぐりや、史跡の説明板設置、市文化祭での講演と芸能など、「身近な地域の歴史文化を学び知ることによって今、現在を見つめ考える力を養う」地道な活動を続けてきた。そうした功績により、2000年には地域文化の発展に貢献したとして文部大臣賞、2008年には郷土史の研究に熱心に取り組んだ団体に贈られる北野道彦賞を受賞している。

会誌は1961年にガリ版刷りで『松戸史談会紀要』を創刊、1963年に現誌名に改題し、翌年には活版印刷となり、現在に至っている。

松田氏は巻頭文を、他の団体と同様に、会員の高齢化や減少の課題を抱えているが、「役員・会員が一体となって事業内容や会の在り方等検討し、更なる会の発展充実のために鋭意努力いたします」と結んでいる。長く続けてほしい。

◆松戸市立博物館紀要

〒270-2252松戸市千駄堀671 TEL047-384-8181 1994年創刊

www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

◇27 2020.3 A4 53p

松戸市河原塚1号墳出土遺物の再検討―須恵器・「鉄釘」・鉄鍬

小林孝秀／鈴木崇司

関場遺跡第2地点の礫群構成礫とその起源について

柴田徹／大森隆志

資料紹介

かつて戸定邸内に建っていた『御厩』について

渋谷 文雄

東 京 都

◆アーカイブ通信 ネットワーク・市民アーカイブ

〒190-0022立川市錦町3-1-28-301 TEL042-540-1663 年6000円

2014年創刊 <http://www.c-archive.jp>

◇19 2020.7 A4 8p

歴史を訪い、歴史から問う—「コロナ禍」なるものを検証するために 石居 人也
ミニコミ紹介

『スペースF』 スペースF 2001年創刊

伴 はるみ

『砂川からのたより』 木を植える会 1990年創刊

加藤 克子

第6期緑蔭トーク報告

第1回「人を耕す、地域を耕す—ミニコミを発行し続けて40年—」

林喜代三さん(グループ目高舎)

第2回「日本近現代政治史料の収集と公開—憲政資料室での経験か

ら—」堀内寛雄さん(元国会図書館憲政資料室)

私と市民活動資料(14) 暮らしの中での信頼できる情報源

鈴木 清隆

市民アーカイブ多摩の資料を探る会①開催

中村 修

記憶と記録の場をめぐる旅(16) 東京ごみ戦争歴史みらい館

—住民運動の歴史をどう未来に伝えられるか

町村 敬志

◆明日を拓く 東日本部落解放研究所

〒111-0024台東区今戸2-8-5 TEL03-5603-1863 1993年創刊

<http://www.hblri.org>

◇126 (47-1 通209) 2020.10 A5 96p 1000円

《特集 中央大学生、皮革のまちを訪ねる》

特集にあたって

編 集 部

写真でみる皮革のまちを訪ねた一日

編 集 部

学生とともに、木下川FWに参加して

池田 賢一

事前学習(1) 木下川の産業と教育

岩田 明夫

事前学習(2) 皮革のまち・木下川の歴史と解放運動

藤本 忠義

座談会「皮革のまちを訪ねて」

佐藤雄哉／長田香澄／伊藤勇紀／齋藤希帆／長澤龍翔／冨澤康士郎

／白石杏／井上未葉／跡部真子／池田賢一／岩田明夫／藤本忠義

感想 木下川フィールドワークに参加して

◆足立史談 足立区教育委員会足立史談編集局

〒120-0001足立区大谷田5-20-1 足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393

◇632 2020.10 A4 4p

千住ゆかりの濱田家と日本画家、渡辺省亭 小林 優
行政文書に見る足立区の水害記録(18・最終回) 山崎 尚之
はい、文化財係です。(21) 鹿浜の歴史を伝える供養塔 佐藤 貴浩

◇633 2020.11 A4 4p

足立区学童集団疎開の祈念碑設立 平和の礎に
あだち民具図典(1) 御嶽神社 おいぬ様のお礼 荻原ちとせ
はい、文化財係です。(22) 来迎寺の庚申塔—文化財保護に伴う新発見
佐藤 貴浩

まもなく開催!

文化遺産調査特別展「名家のかがやき 近郊郷土の美と文芸」
名家の菩提寺 源長寺の金剛力士像(仁王像)開眼法要／法要の様子と
姿を現した金剛力士像 撮影・相川謹之介氏

◆足立史談会だより

〒120-0001足立区大谷田5-20-1 足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393

◇391 2020.10 A4 8p

学童疎開平和祈念碑完成
序幕披露を祝して 木嶋 孝行
民主主義を見直そう 戦後の新教育指針(文部省資料昭和21.5.1)(3)
編・堀川和夫
足立の先人譚・今回は休憩して70年前の中学校発足の頃を回想してみ
ます 相川謹之助

今日もまた筑波よく見え葦枯るる 富沢孝之さん(元足立区議会議員)

小泉武男氏論考 控え 「紙魚のたわごと 紙漉きの源流を求めて
その4」 浅草紙の続き／藩札／聖天様／元結／紙漉き述懐 故 小泉 武男

◇392 2020.11 A4 8p

学童疎開平和祈念碑除幕 区へ贈呈
民主主義を見直そう 戦後の新教育指針(文部省資料昭和21.5.1)(4)
編・堀川和夫
足立の先人譚・今回は相川さん70年前の回想(2) 相川謹之介
権現道を歩く 10.25 行徳探訪

平和の礎に刻み・遺し・伝える

学童集団疎開平和祈念碑が伝えるもの―体験者の建立への想い

学童集団疎開平和祈念碑メッセージ

足立の学童疎開を語る会

私たちの学童疎開体験記／パンフレット「学童集団疎開平和祈念碑が

伝えるもの」／野沢温泉村 久保田真一氏提供写真

◆板橋史談 板橋史談会

〒174-0075板橋区桜川2-27-3 大澤鷹邇方 TEL03-5398-2682

1966年創刊 <http://www.sites.google.com/stite/itabashishidankai/>

◇306 2020.11 B5 24p

表紙写真解説 「よさこい IN かみいた」上板橋北口商店街 写真と文・井上富夫
板橋区内の三山碑(塔) 松崎 憲三

常盤台天祖神社文書について(3)

一帝都学園女学校山本正夫校長宛の祭礼案内

小林 保男

区政つれづれの記(2) 教育編(2)

松浦 勉

ひろば 戦後七五年と私

大塚トモ子

短報 板橋文化財瓦版

信仰が続く唐辛子地藏

井上 富夫

縁切榎の絵馬に目隠しシール

大澤 鷹邇

◆奥武蔵 奥武蔵研究会

〒175-0092板橋区赤塚7-18-7 <https://www.okumusashi.club>

◇436 2020.11 B5 25p

奥武蔵・秩父の山々とコロナ禍

小泉 重光

間瀬堰堤周辺を楽しむ

野口 実

思い出の中の藤本さん(3) 果たせなかった岩原三角測点探訪

町田 尚夫

畏友 遠山元信氏を偲ぶ

町田 尚夫

令和二年の日常

菅野真智子

8月30日 高ワラビ尾根山行後日談

河野 尚久

◆北区史を考える会会報

〒115-0052北区赤羽北1-3-10 大澤栄美方 TEL03-3907-0040 1986年創刊

◇138 2020.11 B5 8p

郷土史・地域史に少しでも興味をお持ちの方に…

倉木 常夫

第447回 月例研究会 巣鴨とげぬき地蔵にみる世相

松崎 憲三

第448回 史跡見学会 鎌倉幕府の始まりと終わり

報告・室岡裕之

◆現在学研究 現代学研究会

〒146-0091大田区鵜の木2-33-81 2018年創刊

◇5 2020.9 A5 76p

《特集 都市民俗再考》

なぜ今、都市民俗再考か

倉石 美都

都市・現在・日常：都市民俗学を振り返る

岩本 通弥

都市民俗学の再考：城下町金沢の近代化現象の事例から

小林 忠雄

「都市」を探す：私にとって都市民俗研究とは何であったか

倉石 忠彦

韓国民俗学と都市民俗学

倉石 美都

開拓秘話「夜泣き梅女」説話の生成と展開

伊能 龍平

書誌紹介 新潟県歴史博物館監修『まじないの文化史 日本の呪術を
読み解く』

高久 舞

◇6 2020.10 A5 82p

《特集 新型コロナウイルス》

コロナ禍は葬儀を変えるのか：松本平の葬儀からの一考察

宮本 尚子

新型コロナ拡大防止に思う 疫病退散方法

私たちの生活どう変わるのか

倉石あつ子

コロナ禍の「いま」「ここ」

高久 舞

仮想空間と伝承文化

倉石 忠彦

旅と暮らしのアメリカ滞在記：二〇一九年 コロナ禍前

松田 貴子

新型コロナ感染禍による韓国生活文化の変化

倉石 美都

◆交通史研究 交通史学会（発売：吉川弘文館）

〒161-8539新宿区中落合4-31-1 目白大学社会学部地域社会学科

鈴木章生研究室気付 1976年創刊 <http://www.kotsushi.org>

◇97 2020.10 A5 89p 2500円

近世川越における河岸問屋仲間の成立と流通秩序の形成

—安永期を中心に—

西口 正隆

史料紹介 行徳船の新史料

—物流博物館所蔵「当村河岸場定写」について

山本光正／玉井幹司

書 評

笠原正夫著『近世紀ノ川の舟運と商品流通』

上村 雅洋

鈴木勇一郎著『電鉄は聖地を目指す 都市と鉄道の日本近代史』

井田 泰人

石井香江著『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか—技術と

ジェンダーの日独比較社会史』	田原 啓祐
関谷次博著『物流発展と生産性―戦後日本トラック輸送の発展から』	
例会報告要旨 2019年度第4回例会	森田 耕平
清末期の電信事業―雲南省における電信建設とその運用を中心に	常任委員会
戦時海運統制下における民間船舶のインシアチブ	白鳥 翔子
近世成田山新勝寺における開帳―文化三年江戸出開帳を事例に	高田 大地
近世信濃の城郭一名所図会・紀行文・旅日記等の記述から	関根 玲奈
四度使の変遷にみる中央集権体制の変容	澤田 聖也
	釜谷友梨子

◆品川歴史館紀要 品川区立品川歴史館

〒140-0014品川区大井6-11-1 TEL03-3777-4060 1986年創刊

◇35 2020.9 B5 69+14p

品川宿の打毀しと地域社会―米価高騰に対する各地の対応 落合 功
史料紹介

品川区指定文化財「妙蓮寺典籍」に関する一考察 鈴木三美子
武蔵国荏原郡戸越村の近世文書一行慶寺と戸越八幡神社の史料から

戸越地域の山路家文書―二人の山路治郎兵衛について 富川 武史
永山由里絵

◆石神井公園ふるさと文化館ニュース 練馬区立石神井公園ふるさと文化館

〒177-0041練馬区石神井町5-12-16 TEL03-3996-4060

<http://www.neribun.or.jp/furusato.html>

◇38 2020.9 A4 4p

《石神井公園ふるさと文化館 開館10周年》

館長からのメッセージ 「開館10周年を迎えて」 小林 克
ギャラリー展「開館10周年記念 特別展ポスター展」／特別展「昭和
のこどもたち」

ふる文ニュース 分室コラム「清張の執筆量」
サポーターコラム 「練馬の史跡めぐり」 幸治 典子

◆十條村研究 榎本龍治

〒114-0034北区上十条3-29-21 シェルムアイ303 TEL03-3905-4699

◇6 (通28) 2020.10 A5 23p

上十条村 雪峰庵に関する基礎的考察 榎本 龍治

コラム 天保九年 姥が橋地藏堂再建趣意書のこと 榎本 龍治

◆城郭だより 日本城郭史学会会報

〒174-8691板橋区板橋北郵便局私書箱50号 TEL03-3967-1948
年6000円 1993年創刊

◇111 2020.10 A4 6p

秀吉が築いた大規模な土手—紀州太田城水攻めの堤防調査
最近の城郭ニュースから

盛岡城の堀の構造や変遷判明／丸亀城で確認の埋没石垣／磐城平城
の本丸御殿跡か／龍岡城五稜郭復元機運
浜松城跡三五次発掘調査／安土城未知の北側に「郭」
江戸城天守復元模型が公開／米沢市上杉博物館 米沢城をテーマに
展覧会

目安箱(1) 復元・復興・模擬(平成19年第57号『城郭だより』西ヶ
谷恭弘執筆を転載)

最近の注目される城郭図書から 山田邦明著『上杉謙信』、黒田基樹
著『北条氏綱』、日本史史料研究会監修・白峰旬編著『関ヶ原大乱、
本当の勝者』、中井均・加藤理文編『東海の名城を歩く 静岡編』、
西ヶ谷恭弘編著『地形から見る日本の城50』

目安箱(2) 館と館・館(平成17年第51号『城郭だより』西ヶ谷恭弘
執筆を転載)

◆杉並郷土史会史報

〒167-0022杉並区下井草3-12-9 新村康敏方 1973年創刊
<http://www.sugi-chiiki.com/rekishikai/>

◇283 2020.9 A4 8p 400円

◇284 2020.11 A4 8p 400円

「故關口兵藏翁開道記念碑」と西照寺

寺田 史朗

例会記 明智光秀の“表と裏”—古文書考証が語る戦国時代

戦国史研究家 大石泰史先生

沖本一暁・記

武蔵野文化協会の『武蔵野事典』に森泰樹元会長 掲載さる

新村 康敏

訃報 井口昭英氏

◆すみだ川 隅田川市民交流実行委員会

〒111-0042台東区寿2-9-9 北村国男方 TEL03-3844-2008 年3000円
1987年創刊 <http://ce.it-chiba.ac.jp/shinoda/>

◇68 2020.10 A4 4p

北九州市「紫川を愛する会」からの報告

橋本 昭雄

◆全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会報

〒253-0106神奈川県高座郡寒川町宮山135-1 寒川文書館 TEL0467-75-3691

<http://www.jsai.jp>

◇108 2020.9 B5 12p

コロナ禍におけるアーカイブズに想う

高木 秀彰

令和2年度第1回役員会(書面会議)

高木 秀彰

令和2年度総会議案について／表彰規程の運用について

社会を担う新職誕生—認証アーキビスト準備委員会報告にかえて

定兼 学

認証アーキビスト(アーキビストの公的認証制度)の概要

令和2年度の各委員会活動

大会・研修委員会

煙山 英俊

調査・研究委員会

嵐 大二郎

広報・広聴委員会

平岡 典昭

◆大道芸通信 日本大道芸・大道芸の会

〒157-0061世田谷区北烏山2-3-9-101 光田憲雄 TEL03-3307-2146

<http://daidogei.info>

◇347 2020.10 A4 2p 100円

熊本市 本覚山浄国寺蔵 松本喜三郎作生人形 谷汲観音像

もう一つの谷汲観音像

◇348 2020.11 A4 2p 100円

『日本大道芸事典』増刷及び一部修正について 「新世界」を「珍世界」

へ／「説教」及び「門説教」は「説経」と「門説経」へ

編集部

忘れ去られた存在の「大道芸」／約四半世紀をかけた集大成の事典／

一人あの世に行くと演目が一つなくなる／興味を持った人々への

入門書に

◆多摩地域史研究会会報

〒207-0033東大和市芋窪4-1735-1-103 梶原方 1991年創刊

<http://tamatiken.web.fc2.com>

◇143 2020.11 B5 44p

例会報告 第108回例会

砥石の歴史

川田 壽文

古墳時代後期から平安時代のカマド構造とその変化～多摩地域を例

として	久世 深雪
新型コロナ禍の例会	(K)
新刊紹介 藤田覚著 歴史文化ライブラリー503『日本の開国と多摩 生糸・農兵・武州一揆』	梶原 勝

◆伝え 日本口承文芸学会

〒168-8508杉並区大宮2-19-1 高千穂大学 立石展大研究室 Tel03-3317-4077 年4000円 1987年創刊 ko-sho.org	
◇67 2020.11 B5 8p	
「新しい生活様式」における「密接」の復権	佐藤 優
追悼 佐々木達司さん	
一口承文芸・太宰治・しじみラーメンのことなど	米屋 陽一
特集 コロナ禍の中の口承文芸研究	
コロナ禍の枝下用水資料室	達 志保
コロナ禍のなかの「日本民話の会・語りの会」	米屋 陽一
コロナ禍で中断した市川民話の会の活動	根岸 英之

◆東京産業考古学会 NEWSLETTER

〒174-0046東京都板橋区蓮根2-29-10 新蓮根団地105 多田統一方 FAX03-3964-8548／〒352-0011埼玉県新座市野火止4-8-43 柚須紘一方 FAX048-479-7490 年2000円 http://tias3.web.fc2.com	
◇145 2020.11 A4 6p	
行事予定（中止のお知らせ）	
「としまえん」回転木馬、どうなる？	文・写真 奥原一三
「産業景観100選」募集のお知らせ	事務局
小平の「ガスミュージアム」を訪ねる	文・井草邦雄
文献紹介 『世界遺産「明治日本の産業革命遺産」ガイドブック 石炭 編 石炭がわかる本』 加藤康子監修 「明治日本の産業革命遺産」 人材育成事業実行委員会	多田 統一
文化財・産業遺産の新たな問題 写真・平野神社ホームページから	文・権上かおる
滝野川四本木（よもとぎ）稲荷神社境内の清水稲荷	文・図 有馬純雄
文献紹介 『東京文化財ウィーク 東京の歴史を訪ねて 通年公開編 2019』 東京都	多田 統一
アール・ヌーボーの回転木馬 美と機械技術の融合	文・写真 奥原一三
茨城県結城市の赤煉瓦建築物(1)	

◆練馬郷土史研究会会報

〒179-0072練馬区光が丘5-2-3-806 鎌田茂男方 TEL03-3977-3091 1956年創刊

◇378 2020.10 A4 2p

豊島氏関係史料を読む 番外編 平安末～鎌倉期の豊島氏(5) 伊藤 一美
7月例会 光秀とガラチャー石谷家・三宅家資料から(伊藤一美氏)

武士紀伊氏について／幕府下における豊島一門の地位
三宝寺池の歴史(4) 葛城 明彦

◆民俗学研究所ニュース 成城大学民俗学研究所

〒157-8511東京都世田谷区成城6-1-20 TEL03-3482-9097/9098

◇125 2019.7 B5 4p

国立アイヌ民族博物館とアイヌ文化の“いま” 関口 由彦
研究所活動報告 所員研究成果(新刊)

川田牧人・白川千尋・関一敏編『呪者の肖像』 川田 牧人
公開講演会一令和元年6月29日開催

三宅和朗氏「古代の仏像の不思議—環境への心性史の立場から」 中川久仁子

◇126 2019.10 B5 4p

地域博物館と民俗学 大野 一郎
研究所活動報告 所員研究例会「江戸における嘉永文化の展開—浅草

寺興行における手わざ文化を中心に」 小沢詠美子
「飛鳥時代の木彫像に関する一視点」 岩佐 光晴

TV or not TV, that is …… —「それが問題だ」を乗り越えるべき時！ 森田 孟
民俗学研究所特別展

柳田國男と子どもの民俗—未来を担う者たちへの願い

◇127 2020.1 B5 4p

冬の燈火 牧野 陽子
所員研究成果(新刊) 外池昇著『天皇陵—「聖域」の歴史学』 (著者)

清水のモリの優婆様 松崎 憲一
18歳成人と「成人の日」 田中 宣一

◇128 2020.6 B5 4p

成城大学民俗学研究所設立50周年にむけて 小島 孝夫
研究所活動報告 研究所刊行物 成城大学民俗学研究所国際セミナー

報告書『ドイツ民俗学との対話』 川田牧人・及川祥平編、『民俗学
研究所紀要』第44集、『諸國叢書』第二十五輯 収載資料『轆轤師

記録』

尽きない想い—恐竜から朱鷺に
罪過視される病

森田 孟
今野 大輔

◇129 2020.7 B5 4p

漢字の共通理解はどこまで？

陳 力衛

「アマビエ」と COVID-19

及川 祥平

振り返ることは 前を見ること—2020年は何の記念の年か

森田 孟

疫病を除ける郷土玩具 [資料紹介]

博多 笹野才蔵／大阪市中央区道修町 少彦名神社 張子の虎

神奈川県

◆厚木市史たより

〒243-0018厚木市中町3-17-17 厚木市教育委員会文化財保護課

Tel046-225-2060 2010年創刊

◇23 2020.10 A4 4p

厚木と渡辺華山『游相日記』

川島 敏郎

◆小田原史談 小田原史談会

〒250-0021小田原市早川160 青木良一方 Tel0465-22-8852

年3000円 1961年創刊 <http://odawara-shidan.hustle.ne.jp>

◇263 2020.10 A4 28p

ペリー来航と小田原藩

奥津 弘高

小田原の郷土史再発見 綱元への抗議か、北原白秋と加藤一夫

石井 啓文

日本画家・近藤弘明の芸術(1)

田代 勉

二宮尊徳の壹圓券(下) 尊徳の肖像画

深野 彰

続・コロナなんか怖くない！一片岡日記を読む会六ヵ月の記録

(幹事・田和)

「北条五代記」(2) 関東天文乱之事／上杉朝成を生捕事

勝 二郎

片岡日記 昭和編(22) 昭和5年8月～10月

片岡永左衛門

◆かまくら女性史の会 Newsletter

〒248-0012鎌倉市御成町18-10 NPOセンター鎌倉気付 メールボックス26

2013年創刊

◇78 2020.11 A4 2p

江刺昭子講演会から 「明治150年、女性差別は続く—男性優位の社会

通念を変えるには—」(2020.10.25)

高階志津江

シリーズ 私たちの「戦争体験」(2) 「引き揚げ紀行」 山根 信子
 富山県南砺市利賀村って? (曾原)
 ◇79 2020.12 A4 2p
 教科書採択の基本問題 郡司 春乃
 シリーズ 私たちの「戦争体験」(3)「この、現実」 山根 信子
 速報 『史の会研究誌』第6号刊行記念会開催 (横松)

◆クロス 常民文化研究会

〒254-0016 平塚市東八幡2-8-20 西海賢二 年1000円 1979年創刊

◇163 2020.11 B5 6p

三遠信美流れの結節点—限界の山村暮らしから(11) 豪農古橋家とあ
 る報徳思想の実践者との交流・新宗教の創出にむけて 西海 賢二

◆市史通信 横浜市史編集室

〒220-0032 横浜市西区老松町1 横浜市中央図書館地下1階 TEL045-251-3260

2008年創刊 <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/gaiyo/shishiorio/>

◇39 2020.11 A4 12p

大正後期～昭和前期、学校写真の世界

—岡野小学校の写真資料を中心に

続・戦後の風景

一九一六年、山室周作家のナス生産と出荷

「広報課写真資料目録」の Web 公開

金 耿昊

羽田 博昭

百瀬 敏夫

百瀬 敏夫

◆首都研ネットワーク 首都圏形成史研究会

〒231-0021 横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館気付 (吉田律人・西村健)

TEL045-201-2169 年3000円 <http://shutokenshi.org>

◇87 2020.10 B5 4p

研究例会 研究例会 第115回例会 横浜開港資料館企画展示見学会、
 伊藤匠「大震災善後会経済部の経済復興への取り組みについて」、
 金耿昊「横浜における震災犠牲者慰霊の一過程—李誠七と村尾履吉
 を中心に—」／次回の研究例会 第116回例会 松本洋幸『近代水道
 の政治史—明治初期から戦後復興期まで—』(吉田書店、2020年)
 書評会

情報ネットワーク 展示会情報!

「首都圏形成史研究 2020」企画に向けたお願い 企画「コロナ時代
 の歴史資料をめぐる現場～首都圏の事例～」

◆扣之帳 扣之帳刊行会

〒250-0021小田原市早川60 青木良一方 TEL0465-22-8852 年2500円

2003年創刊 <http://hikaenochou.world.coocan.jp/mysite1>

◇69 2020.9 A5 168p 500円

箱根強羅『白雲洞茶苑』100年史―益田鈍翁・原三溪・松永耳庵らに

継承された数奇茶席の荘称と庵号の変遷について	田代 道彌
小説一幕末銀板写真倶楽部 ポトゲラヒ(2)	荒河 純
酒匂だより 「連歌橋から」	町田紀美子
青木村の仕法(3・完) 成功と言えるのか	尾上 武
続・ボクの映画館(23)	
大林宣彦監督の「尾道三部作」『時をかける少女』	平倉 正
丹後半島を訪ねる	下田 勝也
歴 震	加藤 三朗
反権威主義のすすめ	石川 和彦
母の記	田中 豊
関東十八檀林記(12) 結城と飯沼の弘経寺	青木 良一
私説 皇道派将校の聲は届かず! 二・二六事件異聞(2)	芳賀喜久雄
失われた日本人(4) 鴨長明	茂木 光春

◆史の会研究誌 史の会

〒223-0062横浜市港北区日吉本町3-31-1-204 江刺昭子方 TEL045-548-9371

◇6 2020.7 B5 182p+ 1500円

聞き書き

小野静枝 横浜の上空襲を記録し、のちの世に伝える	聞き手・江刺昭子
室谷千英 神奈川県の女性政策を担う	聞き手・中積治子
嶋田昌子 活動の始まりは本牧の海から	聞き手・安井恵子
岡江照子 かながわ女性センターで生涯学習を担う	聞き手・影山澄江
高松ミキと座間村女子青年会の活動	
―「熱と愛」で駆け抜けた一〇年	伊藤めぐみ
横浜のバル・エポックの時代を生きた―西川千代の足跡	中積 治子
金森トシエが求めた男女平等社会	
―ジャーナリストとして、行政官として	江刺 昭子
能楽師富山禮子の世界―女性能楽師の歴史を切り拓く	影山 澄江
西條節子の華麗な「終活」―学び・創り・住む	三須 宏子
牧野薊と牧野家の女たち―横浜開港以来の国際派一族	安井 恵子
追想 若木千賀子さん	三須 宏子

「解」を求めて	伊藤めぐみ
歴史の海を泳ぎながら	江刺 昭子
躰きながら紡ぎながら	影山 澄江
横浜を拠点として	中積 治子
女性史としてみるファミリーヒストリー	三須 宏子
スタートはP T A活動	安井 恵子

◆民具マンスリー 神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-0802横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL045-481-5661 年3500円
1968年創刊

◇631 (53-7) 2020.10 A5 24p 350円

雲南・昆明の瓦猫について	劉 伊 琦
国際企画展示「昆布とミョクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」を終えて	松田 睦彦
書籍紹介 『やとのいえ』	

八尾慶次作 2020年8月刊 A4判 40頁 偕成社

仙仁 径

◇632 (53-8) 2020.11 A5 24p 350円

玩具の保存と継承—ファミリーコンピュータを例に	寺農 織苑
岡山市南部・児島湾周辺における漁一小松原義隆氏への聞き取りから	
民具短信 鳥取のエゴノリ採取具	平松 典晃 大楽 和正

◆歴研よこはま 横浜歴史研究会

〒232-0022横浜市南区高根町2-8-12-1001 木村高久方 1984年創刊
<http://www.yokoreki.com>

◇81 2020.11 B5 88p

《特集テーマ 復活》

赤裳瘡流行後の風景—天平の世に教わるもの	松尾 光
特集テーマ 復活	
『もうひとつの古代史』逸文 「聖徳太子=斑鳩復活」論	忌部 守
ライオン宰相 大恐慌に挑む	榎 良生
復活(三話)	瀬谷俊二郎
復活ならずササニシキ	金銅 政次
極楽への復活と、融合の日本宗教(色葉句へどその4)	宮下 元
熊野詣における「いのちの復活」	山本 修司
嗚呼 諸葛孔明 祇山悲愁の風更けて 星落つ秋風五丈原	高野 賢彦

虚構の「比企氏の乱」 北条一族の陰謀
 歴シル鎌倉室町400「74」「81」
 幕末の仙台藩と鴉組隊長細谷十太夫の生涯
 大迫皇女～我が背子・別れ
 与惣兵衛と伝八郎
 ざんねんな貴公子・実方中將の説話と伝承
 浅川兄弟と柳宗悦
 鎮守府將軍・田原藤太(藤原秀郷)の武勇伝
 遣唐使が渡海に臨み思ったこと
 エッセイ

加藤 導男
 高尾 隆
 長谷川憲司
 遠田千代吉
 真野 信治
 小林 道子
 清水 漠
 石原 裕之
 木村 高久

古歌を訪ねて(11) 西行が語らなかった人たち
 その気にさせないで!?
 戦後の昭和・年表を眺めてみると
 スズ(錫)ベスト
 鎌倉・長谷にて
 田道間守伝説
 「吾妻鏡」の中の台風について
 中国漢水 歴史の旅～漢中から武漢へ

丹下 重明
 真野 信治
 長尾 正和
 武田 収功
 鈴木美恵子
 森 彩子
 西沢 昭
 長田 格

コラム 流人からの復活

- (1) 芸が身を援けた復活「英一蝶」
 - (2) 島流しが復活の原動力? 「西郷隆盛」
 - (3) 流人の沙汰もこね次第「俊寛」
 - (4) 赤穂浪士遭兇の処分とその後
- ショート笑人 仰げば尊し 和菓子之恩?

高尾 隆
 高尾 隆
 高尾 隆
 高尾 隆
 藤森 詔子

思い出ピンナップ コロナ禍で例会・イベントの中止が相次ぐ
 表紙の写真

「山手イタリア山庭園と外交官の家」 撮影・文：高島治さん

新潟県

◆頸城文化 上越郷土研究会

〒942-0081上越市五智6-1-11 花ヶ前盛明方 TEL025-543-4354 1952年創刊

◇68 2020.9 A5 187p

翡翠と鉄(3) 海を航く神々 弥生時代の交易ルート

鰐渕 好輝

天津神社・奴奈川神社の文化財について

拝殿幣殿の茅葺屋根とタブノキ(楠)

土田 孝雄

『親鸞伝絵』の構成について	太田 空賢
各地の古文書から見えてくる親鸞配所の地「まきの村」は上越市牧区 上牧集落	星野 欣也
頸北史の再評価	高橋 勉
妙徳院と俊海について―長岡市周辺の妙徳院の伝説にも言及して	岡田 清
絶世の美女、妙徳院と庇護者、堀直寄	石田 哲彌
越後国と本願寺・一向一揆との関係(1)	吉田 昇
魚沼市(旧堀之内町)の山城	花ヶ前盛明
能登は優しや 土までも 安永六年(1977) 太田道兼「能登名跡志」 より 能登半島の上杉謙信公(1)	青山 増雄
文化六年の「付替」をめぐる	清沢 聰
江戸期の上島村一區有文書から探る	清水 萬藏
石仏の修験彫刻調査「未知の石彫刻を活用した、調査法の考案」 例5 ・裸行上人墓とその関連(妙高市・上越市) 妙高信仰史の深堀と、 お宝の発見	吉川 繁
上越歴史散歩(5)	新潟日報カルチャースクール上越教室
滝寺毘沙門堂	加藤 裕二
滝寺不動	加藤 裕二
陸軍第十三師団高田入城	加藤 裕二
善導寺	山田 宏
越後瞽女	山田 宏
本覚坊	古川 猛
御館跡	花ヶ前盛明
福島城跡	花ヶ前盛明
直峰城跡	花ヶ前盛明
鯨ヶ尾城跡	花ヶ前盛明
山寺薬師	古川 猛
参考文献	

◆高志路 新潟県民俗学会

〒950-0916新潟市中央区米山3-1-31-1101 金田文男方 TEL025-241-9402

1935年創刊 <https://fsnp.mints.ne.jp>

◇418 2020.11 A5 48p

刈羽瞽女伊平タケの業績とその唱芸	鈴木 昭英
『置賜民俗記』に見る新潟県の民俗事象	佐藤 和彦
新潟市西浦地区医師瀬の「牛道」について	山上 卓夫

山の神、一考察
報 告

石田 哲彌

富山県魚津市古鹿熊のテン・イタチ・猿狽
小千谷市桜町伊米神社奉納米の稲刈りと稲架け
小報告 雪形の変化、変容、怪鳥カルテンとは
表紙写真 小千谷市伊米神社奉納米の稲刈り風景 撮影・坂井美香

森 俊
坂井 美香
金田 文男

◆まきの木 巻郷土資料館友の会

〒953-0041新潟市西蒲区巻甲3069-1 TEL025-672-6757 年1500円 1978年創刊

◇113 2020.10 B5 12p

宝暦七年 一夏に四度の信濃川大洪水

ーそれでも、水害を受けなかった巻村の本町通り
夏井集落のルーツを尋ねて

亀井 功
山上 健

◆良寛だより 全国良寛会会報

〒951-8112新潟市中央区南浜通2 北方文化博物館新潟分館内

TEL025-222-2262 1978年創刊

◇170 2020.10 A4 16p

「百草戯」(人見少華・画) ひとみ・しょうか(明治26年～昭和43年)

(出雲崎町 良寛記念館所蔵)

リレーエッセイ 良寛つれづれ(19) 良寛の末妹・みか子のご縁

曾根 英一

良寛遺墨鑑賞(18) 杜阜宛書簡

小島 正芳

折々の良寛(59) 良寛「法華讃」のすすめ(6)

長谷川義明

「良寛さんの夢」でお迎えます

後藤田恵子

円通寺と良寛様の坐禅石

器楽堂ゆう子

新会長に小島正芳氏 長谷川義明氏は名誉会長に

会長退任のご挨拶

長谷川義明

会長就任のご挨拶

小島 正芳

「各地良寛会だより」(11) 良寛クラブ南魚沼

反響を呼んだ復刻紙芝居 深みのある活動を目指す

高野 孝雄

相馬御風の良寛(19) 死ぬ時節には死ぬがよく

金子善八郎

余韻に聞く(上) 良寛画像つれづれ

安達 武男

忘れ得ぬ人びと(1) 吉野秀雄氏の歌と書

加藤 惇一

良寛 法の道の歌 素描

吉田 福恵

国民文化財にいがた「詞フェスティバル」 良寛関係の入賞作品の紹

介(3) 現代詩 現代詩・一般の部(新潟県知事賞 東京都 倉

田史子)／現代詩・小中学校の部(日本詩人クラブ賞 新潟県長岡
市立青葉台中学校 宮下月希) 本間 明
山岸楽斎と幸田文察(上)―過去の研究結果と今後の方向性 山下 健
新刊紹介
『良寛と岩室―その源流を尋ねて』山下健著 小島 正芳
『良寛詩歌の研究―その素材と表現』上芝令子著、『一日一戒 良寛
さん』枅野俊明著 柳本 雄司
会報・会誌紹介 田中の松第22号(岩室良寛会)、鉢の子だより第33号
(東京良寛会)、良寛さま第100号(岡山良寛会)、すみれ第12号(巻良
寛会)、にいがた良寛第72号(新潟良寛会)、洗心第30号(御風会) 吉井 清一
良寛を訪ねて(19) 索索五合庵(燕市)(中) 吉井 清一

富 山 県

◆北陸石仏の会会報

〒939-1315砺波市太田1770 尾田武雄方 TEL0763-32-2772

年3000円 1993年創刊 <http://www1.tst.ne.jp/odatakeo/>

◇62 2020.12 A4 6p

利鍵大師と感染症コレラ

尾田 武雄

身近な准胝観音

平井 一雄

橘大明神(弟橘媛)

滝本やすし

「西国三十三所写し」の三面の不空罽索観音

松井 兵英

新湊を散策

尾田 武雄

長 野 県

◆飯田市歴研ニュース 飯田市歴史研究所

〒395-0803飯田市鼎下山538 TEL0265-53-4670

<http://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/201700601.html>

◇108 2020.10 A4 4p

史料紹介 天龍社労働組合雑誌「竜玉」

太田 仙一

飯田歴研賞2020

著作賞

片桐秀人氏『自分史 この道を行けば』(私家版、2019年9月)

小島庸平氏『大恐慌期における日本農村社会の再編成―労働・金

融・土地とセイフティネット』(ナカニシヤ出版、2020年2月)

論文賞 前澤健氏「元禄期信濃国飯島代官所の「樽木成」改革」(『信濃』第71巻第5号(通巻832号)、2019年5月)、「一七世紀における樽木役の変質」(『飯田市歴史研究所年報』第17号、2019年9月)

奨励賞 坂本広徳氏「下区有文書の伝来から考える近世清内路の村運営」(『飯田市歴史研究所年報』第17号、2019年9月)

◇109 2020.12 A4 4p

史料紹介 伊賀良村大字大瀬木全図(明治23年の旧公園) 福村 任生
市民研究員の紹介

市民研究員 壬生雅穂さん／市民研究員 坂本広徳さん
リレーミニエッセイ(19) 地域の博物館活動の現場から 千葉 拓真
新刊紹介 飯田市歴史研究所年報18 2020年12月中旬販売開始

◆伊那 伊那史学会

〒395-0081飯田市宮ノ上4048 TEL0265-22-6017 年5500円

◇1109 (68-10) 2020.10 A5 50p 550円

口絵 外来鳥 ガビチョウが伊那谷に分布拡大 米山 富和
天龍川のチドリ この二十年 佐々木剛彦
飯田・下伊那のトンボ相の今 山田 拓
日本一小さな哺乳類トガリネズミとそのなかま 宮下 稔
変動する天竜川水系の魚屋社会(1) 国内出身の新人たち 大原 均
南アルプスの調査で歩いた大井川一縮小していく大井川上流域 村松 武

◇1110 (68-11) 2020.11 A5 50p 550円

口絵 ウェストンの赤石岳登山顕彰碑一大鹿村大河原 北村 尚幸
二冊の『記念帖』~かつて村宝だった名士揮毫帖 鎌倉 貞男
歌誌『夕樺』と下伊那青年運動(2) 清水 迪夫
駄科同盟会の功績一鈴岡公園開園と地区に伝統芸能を残す 下平 隆司
南信州の十王信仰と十王堂(下の二・完)

一(5) 南信州の十王堂と十王像の特徴

資料紹介 山吹白鬚神社奉額俳句 岡田 正彦
芦部 公一

◇1111 (68-12) 2020.12 A5 50p 550円

口絵 「聖徳太子勝鬘經講讀図」(個人蔵) 織田 顕行
高須藩の御用金賦課と村方騒動(3) 伊坪 達郎
歌誌『夕樺』と下伊那青年運動(3) 清水 迪夫
江戸時代のある村人から見た感染症 塩澤 元広
数少ない白隠禅師の乞食図 桃澤 匡行
「たいざ」考 今村 理則

伊那 第六七巻総目録 〈2020.1〉より 〈2020.12〉まで

◆伊那路 上伊那郷土研究会

〒399-4501伊那市西箕輪3180 山口通之方 TEL0265-73-5538 年5000円

◇765 (64-10) 2020.10 A5 40p 500円

《「箕輪町松島」特集》

松島氏に関する明音寺所蔵資料 上野 徳俊

松島王墓古墳と原東山道 北條 芳隆

「懐中扣」が伝える村人の幕末、明治 三浦 孝美

第29回信州伊那井月俳句大会入選句

古文書の窓(155) 高遠藩と清内路関所(3) 小池 悟志

随想 孫引き三題 桃澤 匡行

図説・上伊那の民俗(40) 栗林神社獅子舞(駒ヶ根市東伊那) 三石 稔

徒然さんぽ(15) 真言宗智山派 成田山恩徳寺 絵と文・吉田勝美

◇766 (64-11) 2020.11 A5 40p 500円

保科正之の切支丹政策 瀧澤 秀人

三峰川通りにおける安政国役御普請(2) 春日賢太郎

手良郷土館と明治時代の冠婚葬祭・年中行事(2) 宮原 達明

図説・上伊那の民俗(41) 魔除け(箕輪町南小河内) 三石 稔

徒然さんぽ(16) 旧駒ヶ根市役所庁舎 駒ヶ根市郷土館 絵と文・吉田勝美

著書紹介 林雅彦著『法城山高圓寺蔵「那智参詣曼荼羅」—熊野比丘

尼の絵解きをめぐって』、雨宮国広著『はくは縄文大工—石斧でつ

くる丸木舟と小屋』

◆信濃 信濃史学会

〒399-0036松本市村井町南1-28-35 年10200円 TEL0263-58-1213

<http://www.shinano-shigakukai.jp>

◇849 (73-10) 2020.10 A5 82p 1150円

下高井郡木島平村根塚遺跡出土の鉄剣をめぐる諸問題 杉山 和徳

元和七年上田領別所足輕女房身代文書考 尾崎 行也

借屋人統制からみる地域秩序の変容 速渡 賀大

戦時下における苹果出荷組合の変遷 横山 憲長

◇850 (73-11) 2020.11 A5 82p 1150円

《講演・近現代史特集》

総会講演 満洲移民と長野県 伊藤 純郎

昭和初期恐慌期における村財政の具体像(前編)

—更級郡信田村を事例として
昭和戦前期における〈戦没者慰霊〉の展開
—長野県南佐久郡の「公葬」を中心に

田中 薫

小池祐賀子

◆千 曲 ふるさとに学ぶ 東信史学会

〒386-0024上田市大手2-7-13 上小教育会館内 TEL0268-24-2182
年3000円 1974年創刊

◇173 2020.10 A5 64p

《特集号 明治維新 その1》

明治維新の中山道和田宿

尾崎 行也

成澤寛経あて書簡にみる幕末の情報

児玉 卓文

東信地方における基督教の受容と木村熊二(1)

丸山 厚至

明治維新一当時の手紙・書簡などから時代の動きを考察

牧野 和人

窓「神村台地の開発と用水堰」教材化の思い出

堀内 泰

連載講座 古文書解読講座 第164回

斎藤 洋一

扉写真と解説 小平甚右衛門之碑

平林 大樹

◆長 野 長野郷土史研究会

〒380-0905長野市七瀬南部14-7 TEL026-224-2673 年4000円 1964年創刊

<http://www.janis.or.jp/users/kyodoshi/>

◇317 2020.12 A5 72p 800円

口絵・表紙解説 長野市鬼無里の「鬼女紅葉」の史跡(2020年9月8日

撮影)／表紙 「鬼女紅葉」の菩提寺 松巖寺の本堂(長野市鬼無里)

／裏表紙 長野市鬼無里の「鬼女紅葉」の史跡(2) 撮影・長野郷土史研究会

長野市相生座・ロキシの魅力と変遷

竹内 正彦

信濃国出身の近世浄土宗の高僧

石川 達也

明治時代に作られた長野市平野部の城館跡図

—『水内郡古跡名勝絵図』より

小林 一郎

長野市鬼無里の「鬼女紅葉」の史跡

小林 一郎

北信濃で絵解きされてきた「鬼女紅葉」の伝説

小林 玲子

「松代大本営(地下壕群)」は「長野大本営(地下壕群)」と改めるべき
では

土屋 光男

諏訪信仰の町としての善光寺門前・長野市中心街地

小林竜太郎

読んで歩いた長野(4) 小池直太郎の「貉の怪異」

栢木 希望

長野と全国各地の繋がり(14)

太子町(須坂市)の太子堂にある聖徳太子絵伝の絵解き

小林 玲子

◆長野県民俗の会通信

〒384-2104佐久市甲135 田澤直人方 TEL0267-88-6927 年5000円

<http://nagano-minzoku.chu.jp>

◇280 2020.11 B5 8p

発見された「尼彦之姿」

市東 真一

第222回例会参加記 安曇野市

宮田 紀英

葉書でつぶやくコーナー

道祖神碑石造立の“伝承”—『長野県道祖神碑一覧』を読む(8)

倉石 忠彦

昨年の台風一九号の被災から—佐久市望月天神区の道祖神碑

田澤 直人

静岡県

◆静岡県近代史研究 静岡県近代史研究会

〒422-8526静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学国際関係学部 森山優研究室

年4000円 1979年創刊 <https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com>

◇45 2020.10 A4 126p 1700円

総会記念講演録

外から見た幕末維新期の日本—西欧人と朝鮮修信使の観察から

趙 景 達

特集 静岡県の戦後75年

静岡県における地域社会戦時体制論の試み

—学童集団疎開受入れと地区特設警備隊を中心に—

一條 三子

軍事郵便の考察—資料紹介も兼ねて

小池 善之

「掩体」と「掩体壕」について

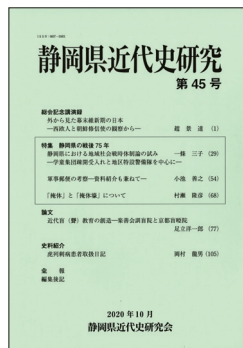
村瀬 隆彦

近代盲聾教育の創造—楽善会訓盲院と京都盲啞院

足立洋一郎

史料紹介 虎列刺病患者取扱日記

岡村 龍男



＊人類の歴史はウィルスとの闘いの歴史でもあったといわれる。いつの時代もウィルスが脅威であったのは、その時に有効な治療法がなかったことによる。

新型コロナウイルスの猛威の中で、天然痘、コレラ、ペスト、スペイン風邪など過去のパンデミックについての関心が高まり、全国の研究誌にこうした論考が散見されるようになっていく。

岡村龍男氏の「虎列刺病患者取扱日記」は、1882年に静岡県吉原駅で発生したコレラに対する、戸長役場職員の対応を記した7月22日から8月3日までの業務日記全文を翻刻し、解説したものである。

この年全国のコレラ届け出患者数は51,631名(静岡県2,962名)、内死者数は33,784名(同1,870名)で死亡率は65.43%(同63.13%)であった。その3年前の1879年は全国の届け出患者数162,637名、死亡率65.04%、4年後の1886年は同155,923名で死亡率69.52%というもので、この死亡率の高さに人々は恐怖にさらされていた。

吉原駅で最初の犠牲者が出た時に、もっとも困難を極めたのは、火葬場への死体の運搬と埋葬を含む火葬の取り扱いであった。火葬場取扱人の臨時雇いと特別手当支給、運搬は村々にはばかって日没を待って行わなければならなかった。駅内での感染はとどまらず、衛生委員から感染防止のために患者隠匿を行わないようにとの注意がされたことは興味深い。これとは別に、入院中の高齢女性が発病し、避難病院への移送をめぐって警察と地元住民との間で騒動となり、戸長が出張って住民を説得する様子も記録されている。

世の中の混乱や住民の意識など新型コロナウイルスと重ね合わせて、考えさせられる。

◆静岡県近代史研究会会報

〒422-8526静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学国際関係学部 森山優研究室
年4000円 <https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com>

◇506 2020.11 A4 8p

11月例会レジュメ

大正後期から昭和戦前期における落語の様相

清水 寛磨

植民地樺太の地方都市―北海道拓殖銀行資料を用いて

石子 智康

近代におけるアイシャドウ使用状況の相違

―1920年代のモガ化粧と、1930年代の眼化粧

増渕 美穂

2020年10月総会 事務局報告

小池 善之

◇507 2020.12 A4 8p

12月例会 ラウンドテーブル『静岡県近代史研究』第45号合評会

ラウンドテーブル1 レジュメ

近代盲(聾)教育の創造―楽善会訓盲院と京都盲啞院	足立洋一郎
事務局長の交代に当たって	橋本 誠一
静岡県近代史研究会幹事会声明「菅義偉首相による日本学術会議新会 員任命拒否の撤回を求める」	
新刊紹介 静岡平和資料センター調査研究部『本土決戦と静岡』	村瀬 隆彦
紹介 小冊子『関東大震災と朝鮮人虐殺』	小池善之・記

◆静岡平和資料センターだより

〒420-0858 静岡市葵区伝馬町10-25 中央ビル90 2階 TEL054-271-9004
<http://www.shizuoka-heiwa.jp>

◇67 2020.10 A4 2p

企画コーナー展示「門標に見る戦時下の暮らし～乾徳寺の和尚さんの
コレクション～」/「オンラインミュージアム・戦争と静岡」がオー
ブンします！

戦後75年 今、あなたに伝えたい 特別講演会 兵士たちのアジア・
太平洋戦争一戦場の現実体験から考える 講師：吉田裕さん

◆静岡県民俗学会会報

〒424-0053静岡市清水区洪川1-9-35 <http://web.thn.jp/s-folklore/>

◇177 2020.10 A4 4p

磐田市敷地(旧豊岡村内)の民俗調査

中山 正典

シリーズ食(41) 「ほっしーも」(甘藷切干)

中山 正典

◆静岡歴研会報 静岡県歴史研究会

〒422-8045静岡市駿河区西島363-55 篠原旭方 TEL054-286-8659

◇158 2020.10 B5 16p

令和2年度総会

第128回研究会 堀川幸美氏の「【聖武天皇の時代とその後】について」
の概要／須山忠治氏の「【幕末の津屋野藩と浜田藩】について」の
概要／望月茂氏の「【地名の伝承から見る地域史】について―「古代
服織」のルーツを探る」の概要

愛 知 県

◆まつり通信 まつり同好会

〒496-8049愛西市塩田町砂山25 TEL0567-37-0441 年5000円

<http://www.wa.commufa.jp/matsuri/>

◇610 (60-6) 2020.11 B5 8p 600円

表紙写真のことば 遊行寺歳末別時念仏会(一つ火)

神奈川県藤沢市清浄光寺 11月27日

坂本 要

地芝居いろは考〜観客

蒲池 卓巳

尾張・知多における青峯山信仰と民俗展示

一名古屋市博物館特別展示「海たび」の展示から

長谷川洋一

三重県

◆織豊期研究 織豊期研究会

〒514-8507津市栗真町屋町1577 三重大学教育学部 日本史研究室内

TEL059-231-9218 年1500円 1999年創刊

◇22 2020.10 B5 72p 1500円

歴史研究と研究史—徳川氏研究の事例から

本多 隆成

「天正記」から読み解く豊臣秀吉の政治思想—天下人とは何か

小林 隆

賀茂別雷神社と秀吉文書

藤田 恒春

小特集—近世成立期大規模戦争、関ヶ原合戦の諸論点

関ヶ原の戦いから大坂の陣をめぐる大規模戦争研究の軌跡

水野 伍貴

本多隆成氏の「『小山評定』再々論 家康の宇都宮在陣説を中心に」

を拝読して

高橋 陽介

書評 安藤弥『戦国期宗教勢力史論』

太田 光俊

滋賀県

◆彦根城博物館だより

〒522-0061彦根市金亀町1-1 TEL0749-22-6100 1988年創刊

<http://www.hikone-castle-museum.jp>

◇131 2020.12 A4 4p

テーマ展 戦に備える—彦根藩の武具管理

腰物武器馬具類記 個人蔵

展示案内 2020年12月～2021年1月 テーマ展 戦に備える—彦根藩

の武具管理、テーマ展 子どもをめぐる美術—祈りから遊びまで、

特別公開 雛と雛道具、テーマ展 書斎の美—文房具愛玩／常設展

示 “ほんもの” との出会い—彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心

に80点あまりを展示

京 都 府

◆史迹と美術 史迹美術同致会

〒606-8048京都市上京区下立売通小川東入西大路町146 中西ビル内

Tel.075-462-4292 年8000円 1930年創刊 <https://www.shibikai1930.com>

◇908 (90-8) 2020.9 A5 32p 916円

画論研究 2 土佐光起『本朝画法大伝』偽撰考補説(下)

寺本 健三

組立百萬塔のヘリカルCT所見

岡 成寛

第1067回例会 北摂 高槻の文化財

加藤 繁生

第50回「石造美術勉強会」報告

箱根・小田原の宝篋印塔、五輪塔、石仏めぐり

高橋 浩行

◇909 (90-9) 2020.11 A5 36p 916円

《九十周年記念特集号「今こそ地域の文化財情報を」》

雛人形「曲水の宴」の「蛇籠」

尼崎 博正

奈良の大寺 層塔の話題三題(上)

村田 和義

泉橋の架橋と泉橋寺地藏石仏の造立について―造立当初の姿を考える

石田 正道

「今こそ地域の文化財情報を」あとがき

丸山 貞

◆歴史民俗学研究 龍谷大学民俗学研究会

〒600-8268京都市下京区七条大宮東入大工町125-1 龍谷大学(浦西勉研究室)

2016年創刊

◇3 2020.3 A5 40p

三輪流神道の伝承について

数元 彬

西国巡礼の近代化―「三十三所順礼競争」を中心に

曾根 佑規

史料紹介 「(仮題)元治元年八月学林所化上書」

―西本願寺学林における「外学」受容の一齣

小林 健太

2017年度彙報 『沙石集』(巻二)輪読 テキスト (渡邊綱也校注『日

本古典文学大系 沙石集』岩波書店、1966年)

大 阪 府

◆泉佐野の歴史と今を知る会会報

〒596-0845岸和田市阿間河滝1425 井田寿邦方 Tel.0724-28-0204

年1200円 <http://www.eonet.ne.jp/~sanonokai/>

◇395 2020.11 B5 12p

慶長一六年の新川盛政と駿府の徳川家康—駿府政権と和泉国の一断面

廣田 浩治

立石垂顕念典が生きた時代と人々(9) 第五章 立石家譜を読む

立石 元

現代語訳「食家と佐野と海」(3)

二山 和美

史料 佐野村の寺社(8) 藤田家文書「佐野村寺社帳」(8)

◆大阪歴史懇談会会報

〒536-0008大阪市城東区関目2-3-2 アンティークショップ一兵内 TEL06-6931-1081 年5000円 1984年創刊 <http://osakarekikon.cocolog-nifty.com>

◇431 (37-9) 2020.9 B5 4p

神のおやしること(53) 今宮戎神社(2)

和久 敦也

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 「武市半平太」(シリーズ・実像に迫る8) 松岡司、「土佐勤王党風雲録」上・下巻 村

田英一、新版「維新土佐勤王史」瑞山會(編)

◇432 (37-10) 2020.10 B5 8p

神のおやしること(54) 今宮戎神社(3)

和久 敦也

令和2年9月例会報告(第402回)

「日本史上の死刑を考える」大阪歴史懇談会会長 片倉穰氏 (報告・磯崎)

令和二年度「大阪歴史懇談会定時総会」開催 (報告・磯崎)

会員の書評 『「怖い絵」で人間を読む』

(中野京子著 N H K出版生活人新書)

評者・井川光正

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 「流浪將軍 足

利義昭」桑田忠親、「足利義昭」(人物叢書) 奥野高広、「天下人と

二人の將軍—信長と足利義輝・義昭(中世から近世へ) 黒嶋敏、「戦

国期足利將軍家の権力構造」(中世史研究叢書27) 木下昌規

◆かいづか文化財だより テンブス 貝塚市教育委員会

〒597-8585貝塚市畠中1-17-1 TEL072-433-7126 1996年創刊

◇72 2020.10 A4 8p

表紙 ほっかんさんの紀北旅行で一行がめぐった名所

淡嶋神社／紀州東照宮／粉河寺／紀三井寺／和歌浦

江戸時代の旅—ほっかんさんの紀北旅行記

企画展「江戸時代の人びとの旅行記—古文書から見た様々な観光名所」

／第121回かいづか歴史文化セミナー 講演会「ほっかんさんの紀北

遊覧をめぐる」

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理(2)

和泉葛城山でブナの種子が大豊作—この機会を逃さない

のこぎり屋根の工事建物を調査—株式会社テザック三ツ松工場

良寛子ども講座：学びとポイントクリーブプログラム「拓本でしおり
を作ろう」

小学校巡回展示「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」

古文書をひも解く—江戸時代の民衆の旅

澤薬師堂の位牌調査

◆近畿文化 近畿文化会

〒543-0001大阪市天王寺区上本町6-5-13 上本町YUFURA 7階

TEL06-6775-3686 年2200円

◇851 2020.10 A4 8p 300円

平城宮跡再訪

森下 恵介

奈良市大柳生町の太鼓踊り

武藤 康弘

◇852 2020.11 A4 8p 300円

仏像入門 法隆寺のみほとけたち—飛鳥・白鳳仏を中心に

関根 俊一

筒井順慶と織田信長・明智光秀

天野 忠幸

◇853 2020.12 A4 8p 300円

八幡市周辺の古社寺と遺跡—古代の山陰・山陽道と男山丘陵の古跡

泉森 皎

光明皇后・孝謙(称徳)天皇 女性二代

鷺森 浩幸

◆古代史の海 「古代史の海」の会

〒573-0084枚方市香里ヶ丘6-4-9 上遠野浩一方 年4000円 1995年創刊

<http://www7.ocn.ne.jp/~kodaishi/>

◇101 2020.10 A5 64p 1500円

巻頭言 「新しい生活様式」を考える

上遠野浩一

東大寺の盧舎那仏と河内国大県郡の智識寺

塚口 義信

天王と皇帝—五胡十六国の君主号と礼制

三浦 啓伯

アンデス通信(54) 多文化世界をつなぐインカ道

市木 尚利

一光三尊像のルーツについて—考察(1)

山下 輝幸

考古資料と『日本書紀』(中)

—古代氏族ヲハリ(尾張)氏とムゲツ(身毛津)氏で考える

尾関 章

◆左海民俗 堺民俗会

〒593-8302堺市西区北条町2丁10-11 佐原浩二方 TEL072-275-8588 年3000円
<https://ameblo.jp/skmz2014>

◇164 2020.10 B5 4p

雷の伝説地と民話

くわばらくわばら、へそ隠せ／西福寺の雷井戸／芦原の里 下谷 佐吉
世間は狭い 岸 繁司

◆城だより 日本古城友の会

〒577-0044大阪市西成区玉出中2-11-28 平川大輔方 TEL06-6652-4511
<http://www.kojyo-tomonokai.com>

◇622 2020.10 B5 26p

越前紀行(2) 一乗谷 藤岡 秀典
丹後守護一色氏の史跡を訪ねて(後編) 下岡 力
対馬・壱岐のお城を訪ねて(1) 金田城 高菅 純子
別冊 第684回例会 令和2年(2020)10月4日 山城 山崎(天王山)城
を訪ねて 担当幹事:平川大輔・藤岡秀典

◇623 2020.11 B5 32p

10月・第684回例会の報告 山城 山崎(天王山)城
担当幹事:平川大輔・藤岡秀典 報告・藤岡秀典
越前紀行(3) 福井城・丸岡城・敦賀金ヶ崎城 藤岡 秀典
対馬・壱岐のお城を訪ねて(2) 棧原城・金石城・清水山城 高菅 純子

◆つどい 豊中歴史同好会

〒560-0054豊中市桜の町4-6-27-208 小川滋方 月1000円
1988年創刊 <http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>

◇393 2020.10 B5 18p

古代の丹後特集(1)

丹後の三大古墳とヤマト政権 塚口 義信
丹後の巨大古墳と丹後王国 三浦 到

◇394 2020.11 B5 12p

天孫降臨神話の形成と天命思想 水谷 千秋
豊中市内中央部の遺跡を訪ねて 加藤 豊子

◆ヒストリア 大阪歴史学会

〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院人文学研究科

古市晃研究室気付 1951年創刊 <http://www.historia-osaka.on.arena.ne.jp>

◇282 2020.10 A5 81p 900円

特集 在郷町富田林の歴史と現在

特集にあたって

大阪歴史学会企画委員会

四六〇年の歴史が今も息づく町並み

一富田林寺内町 重伝建地区選定以降のまちづくりについて

森口 大士

戦後時代の富田林一寺内町研究の展開と課題

仁木 宏

寺内町富田林と町家について一寺内町今井との比較から

植松 清志

近世の富田林と寺内町遺跡

北山 峰生

地域の歴史を守り伝える 地域歴史資料を学び楽しむ「場づくり」

室山 京子

書 評

志賀節子著『中世荘園制社会の地域構造』

湯浅 治久

矢嶋光著『芦田均と日本外交一連盟外交から日米同盟へ』

上田 美和

新刊紹介 遠藤慶太・河内春人・関根淳・細井浩志編『日本書紀の誕

生一編纂と受容の歴史』

安東 峻

報告 ピースおおさかの展示リニューアル問題 続報19

実行委員(文責・横山篤夫)

兵 庫 県

◆家系研究 家系研究協議会

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921

年5000円 1981年創刊 <http://www.geocities.jp/kakenkyou/>

◇70 2020.10 B5 148p 1800円

《家系研究協議会 創立四十周年記念号》

仙石権兵衛秀久の祖系と族裔諸氏

宝賀 寿男

古書に見える珍姓・難読姓(2)

安原 繁利

創立四十周年を祝して

田村 紘一

古代氏族の移動と野菜のルーツについて(課題意識の提案)

斎藤 秀幸

先祖調べは大人の総合学習

一SNS時代の特性を生かしたデジタルとアナログの融合

野口 裕子

清和土岐源氏 明智光秀の系図の謎

安居 隆行

江戸幕臣三井氏の系譜

三井 久安

続・定専坊の楠氏系譜の調査

岡田 有史

『尊卑分脈』以前の系図から導き出される河内源氏の正統

真野 信治

コヒマ

高原 裕司

紀姓平山氏関係の系図について	平山 旦清
渋江氏の系図に関する疑問について(二)	
一南北朝期の公経、公重のこと	山邊 尚幸
薩摩刀匠 浪平正国一千年秘話 刀鍛冶の里(11-2)	浪平 博司
家系研究協議会の歩み(最近10年間)	事務局
会誌「家系研究」バックナンバー詳細	事務局

◆家系研究協議会会報

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921
年5000円 2002年創刊 <http://kakenkyou.g2.xrea.com>

◇74 2020.10 B5 8p

創立40周年に寄せて	宝賀 寿男
家系研究小ネタ特集(1) 会津藩家老萱野家と細川家の意外な関係	
家研協たより 会員の出版情報 宝賀寿男会長『出雲氏・土師氏 原	
出雲王国の盛衰』、吉井功兒さん論文集『中世政治史残篇』／書評	
『北朝の天皇～「室町幕府に翻弄された皇統」の実像』石原比伊呂	
著 中央公論新社 2020年	
珍名さんいらっしゃい(57)	眞野 幹也

◆会報むろのつ 「嶋屋」友の会

〒671-1332たつの市御津町室津457 たつの市立室津海駅館内 TEL079-324-0595
年3000円 1997年創刊 <http://www.maple.or.jp/~shimaya/>

◇28 2020.10 B5 53p

誌上ギャラリー 「オウシ ゾウケイ 2019 風の軌跡」	牛尾 啓三
誌上インタビュー 妖怪が語る世界	小松 和彦
《特集 妖怪の世界》	
日本人と妖怪文化、その不思議な関係	飯倉 義之
播磨の怪談・奇談	小栗栖健治
カッパノガジロウ	小川 知男
地図のなかの妖怪	柏山 泰訓
妖怪学のすすめ	編集部
漂流地方史(2) 『池田輝政』	三木 敏明
博物館遊歩(28) 日本の鬼の文化交流博物館	柏山 泰訓
播磨の10人(8) 藤原惺窩	千田 草介
広告世相史 ぬり絵新聞広告 ガリガリ君	一言居士
町並み探訪(27) 遊子水荷浦・外泊	八木 雅夫

クロスワードパズル

絵本 朝鮮通信使(7) (18) 通信使のおわり／(19) 通信使の歴史的

意義／(20) 通信使の残したもの 監修・仲尾宏／絵・綱本武雄／文・柏山泰訓

表紙写真の説明 「室津観光案内板」

柏山 泰訓

◆嶋屋友の会だより 「嶋屋」友の会

〒671-1332たつの市御津町室津457 たつの市立室津海駅館内 TEL079-324-0595

年3000円 <http://www.muro-shimaya.jp>

◇69 2020.10 A4 4p

令和元年度「嶋屋」友の会決算報告

室津よもやま話(35) 北前船と室津(2)

柏山 泰訓

カタカナ語あれこれ 身体的距離(ソーシャルディスタンス)

柏山 泰訓

かえりみち 播磨の日本遺産港めぐり(3) 坂越

新宮 義哲

◆史料ネット NEWS LETTER 歴史資料ネットワーク

〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内 TEL078-803-5565

年1000円 <http://siryo-net.jp>

◇92・93 2020.4 A4 20p

災害特集・合併号の発行にあたって

特集 2019年台風19号被害対応

2019年台風19号に対する歴史資料ネットワークの対応について 吉原 大志

歴史資料ネットワークによる台風19号対応まとめ

歴史資料ネットワーク事務局

長野市立博物館への初期対応支援と信州資料ネットの立ち上げにつ

いて

吉原 大志

歴史資料ネットワークによる台風19号対応

一栃木県での史料レスキュー

小野塚航一

涌谷町の緊急の資料レスキューに同行して

斎藤 善之

2019年度歴史資料ネットワーク総会の記録

吉原 大志

救出史料を読む 2018年台風21号被災史料の紹介

松本 充弘

第14回地域史卒論報告会

地域史卒論報告会参加記

木村 美菜

地域史卒論報告会に参加して

藤岡 琢矢

地域史卒論報告会参加記

中村 愛

第21回火垂るの墓を歩く会に参加して

跡部 史浩

第6回全国史料ネット研究交流集会を開催しました

◇94 2020.6 A4 12p

- 巻頭言 COVIT-19のなかで 松岡 弘之
地域連携と課題研究の取り組みについて
一高校生による歴史資料の活用を通して 百済 正人
第6回全国史料ネット研究交流集会
第6回全国史料ネット研究集会参加記 井上 瑠菜
第6回全国史料ネット研究集会参加記 瓜生 翠
兵庫県文化遺産防災研修会の開催 松下 正和
兵庫区歴史講演会について 吉原 大志
「コロナ断捨離」と史料レスキュー 歴史資料ネットワーク事務局
新型コロナウイルス感染拡大防止のための行事やボランティア作業の
中止について 歴史資料ネットワーク事務局

◆攝播歴史研究 攝播歴史研究会

〒676-0004高砂市荒井町千鳥2-23-12 TEL079-442-0658 1986年創刊

◇83 2020.11 B5 4p

- 『登り田遺跡』の現地説明会に参加して 廣瀬 明正
新刊紹介 荊木美行著『「播磨国風土記」の史的研究』 廣瀬 明正

◆西宮文化協会会報

〒662-0974西宮市社家町1-17 西宮神社内 TEL0798-33-0321

<http://nishinomiya-ebisu.com/bunkyo/>

◇631 2020.10 B5 8p

- 「西宮大神本紀絵巻」復元裏話(2)
蛭児命の出現一海辺に立つ蛭児命 土井久美子
鉄砲伝来と種子島(2) 奥喜 代孝
訃報 高井良純氏
会員活動報告 コロナ禍で病理医学研究者と情報交換 中村宏／山本純子
◇632 2020.11 B5 8p
西宮宿あれこれ その三 大塩平八郎 山下 忠男
ひょうごの文化発信リーディングプログラム支援事業
能「土蜘蛛」～伝説の刀剣 森村 暁子
会員活動報告 垂加神道(山崎闇斎翁創唱)の文化遺産 中村宏／山本純子

◆歴史と神戸 神戸史学会

〒657-0845神戸市灘区岩屋中町3-1-4 田中印刷出版内 TEL078-871-0551

年3000円 1962年創刊

◇342 (59-5) 2020.10 A5 49p 600円

《特集 史料で読み解くひょうご近世史》

幕末期の大阪湾防禦と淡路島一ヶ台と人工湊の築造に向けて

廣田 晋也

明石で諸道を究めた宮本武蔵

濱田 昭生

兵庫県西国街道一里塚(7)―相生市陸

中村 和男

寛延二年姫路藩百姓一揆 『播姫太平記』の世界

歌井 昭夫

残暑お見舞い申し上げます

新聞新聞地域版を読む

神戸新聞の文化財記事(2014年9月6日～9月12日)

大国正美／有吉康德

奈良県

◆LUCIFER ルシファー 水平社博物館

〒639-2244御所市柏原235-2 TEL0745-62-5588 1999年創刊

<http://www.l.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

◇23 2020.10 A5 62p

企画展・特別展 第23回企画展「西方万吉没後五〇年―西方万吉が目

指した世界―」を開催して

佐々木健太郎

公開講座報告

2019年度第1回公開講座「全国水平社創立宣言の歴史的意義」

大阪人権博物館館長 朝治武さん

2020年度第1回公開講座「西光万吉と和栄政策―日本最初の国際平

和貢献政策」西光万吉顕彰会代表理事 加藤昌彦さん

事業報告

第11回(2020年度)奈良人権文化選奨表彰

全国水平社創立百周年にむけて水平社博物館リニューアル

水平社博物館ニュース(2019年9月1日～2020年8月31日)

和歌山県

◆紀伊考古学研究 紀伊考古学研究会

〒642-0014海南市小野田1221-1 前田敬彦方 1998年創刊

◇23 2020.8 B5 85p 2000円

〈特集 海辺における集落と墓制の実像〉

和歌山県磯間岩陰遺跡にみる交流とその意義

清家 章

生業と生産からみた海辺の実像
海浜部の集落における動物利用
西庄遺跡の骨角器組成とその性格
鹿角製刀子柄からみた西庄遺跡
紀伊における銚帯
資料紹介

田中 元浩
丸山 真史
金澤 舞
仲辻 慧大
北野 隆亮

尾ノ崎東部丘陵遺跡出土の旧石器
一本松古墳の円筒形埴輪—有田市郷土資料館蔵の再検討
集 成

中原 正光
河内 一浩

和歌山県における畠(畝・畝間溝)・耕作痕集成表
紀伊におけるウマ・ウシ遺存体の集成表
和歌山県の考古学関係文献目録(2019年)

藤藪 勝則
田中 元浩
事務局

◆熊歴情報 熊野歴史研究会

〒647-8555新宮市春日1-1 新宮市役所商工観光課 山本殖生
TEL0735-23-3333 年3000円

◇219 2020.10 B5 2p

役員会報告／『熊野歴史研究』23号／熊野の歴史をよむ会／写真集『熊
野修験』／『山に立つ神と仏』／事務局より

◆国際熊野学会会報

〒647-8555新宮市春日1-1 新宮市教育委員会文化振興課
TEL0735-23-3368 年3000円 2005年創刊

◇34 2020.10 A4 4p

奥三河「花祭」の世界—奥三河「花祭」から「熊野信仰」と「伊勢信
仰」を考える

伊藤 茂樹

奥三河「花祭」の世界(講演会と見学会)

島 根 県

◆大社の史話 大社史話会

〒699-0751出雲市大社町杵築西2695-1 稲根克也方 TEL0853-53-4966
年2500円 1974年創刊 <http://www.taisha-shiwa-kai.jp>

◇204 2020.9 B5 42p

「海からみた出雲」とライフヒストリー

—阿部誠悦郎氏の聞き書きから

岩成 俊策

コラム 文字に残らない人々の姿を追って	岩成 俊策
「出雲地域の歴史と文化」シリーズ(17の3) 出雲そばについて	川上 正夫
大社町の町内巡り(5) 入南 入南の地名の由来	永岡 達朗
コラム 「沖御前」と「弁天島」	山崎 裕二
夏井いつき選 日本遺産「日が沈む聖地出雲」俳句作品	たいしゃ俳句協会
令和2年度大社史話会総会の報告	編集部
手銭記念館の四季 杵築文学あれこれ(8) 繋がる俳諧資料	佐々木杏里
開館10周年記念特別展「出雲・上塩冶築山古墳とその時代」	
出雲弥生の森博物館(文責・坂本豊治)	
編纂1300年 日本書紀と出雲	吉永 壮志
表紙写真 「令和2年4月のある日曜日、コロナ禍の影響で閑散とした神門通り」	撮影・勝島徹正

岡山県

◆宇喜多家史談会会報

〒700-0826岡山市北区磨屋町6-28 光珍寺内 TEL086-222-2028 年2000円
2002年創刊

◇76 2020.10 A4 10p

宇喜多秀家の居所と行動	大西 泰正
亀山城を取り巻く歴史的環境	出宮 徳尚
物語直家記伝 西大寺辺の城 第46回 転変(2)	山重十五郎
会員サロン 亀山城城主中山備中守信正の実名／宇喜多氏関連遺跡の 写真展(14)	矢部 隆正
計報 片山博之氏	宇喜多家史談会

◆岡山民俗学会会報

〒703-8421岡山市中区高島新屋敷382-14 難波俊成方 年4000円
<http://okayamaminzokugakkai.web.fc2.com>

◇225 2020.11 B5 7p

旧鉾立村の鳥居門	宮本 光研
沖繩県の半鐘について	片山 鮎子
第五十回岡山民俗学会賞について(公募～自薦・他薦)	吉原 睦

◆きび野 岡山県郷土文化財団

〒700-0822岡山市北区表町1-7-15 702号 TEL086-233-2505

<http://www.o-bunka.or.jp>

◇159 2020.9 A5 14p

新型コロナ禍と歴史研究

久野 修義

国吉康雄研究と顕彰活動に思こと

才士 真司

岡山の人物(98) 明石退蔵

木下 浩

岡山の自然(154) 天福寺の大鴨脚樹

井田 智

岡山の文化財(154) 日本基督教団天城教会

藤原 憲芳

わが町・わが村の自慢 舟宿—FUNAYADO(真庭市勝山)

ふるさとの思い出 詩人の生家 永瀬清子生家保存会(赤磐市)

大切なもの PART2 道路は大切

住山 洋二

広島県

◆備陽史探訪 備陽史探訪の会

〒720-0824福山市多治米町5-19-8 TEL084-953-6157 <http://bingo-history.net>

◇216 2020.11 A4 16p

備後国衆列伝(4) 甲奴郡の長氏

田口 義之

小林悠一のかんたん古文書講座(3)

小林 悠一

研究レポート 福山城小丸山考える(2)—その構造と役割

瀬良 泰三

調査報告 山手銀山城跡測量調査報告

杉本 憲弘

田口義之の備後山城50選(41) 九州探題渋川氏の拠点 鳴滝山城

郷土探訪 合同製塩工場(松永)

岡田宏一郎

近世福山の歴史講座 水野家三代勝種治世

藩主不在の福山藩一城代家老 上田玄蕃専横の藩政

高木 康彦

ワンショット・レポート～ぶら探訪67・一乗山城と常国寺／ワンショ

ット・レポート～バス例会・広島城・他

備後史談 『日本書紀』の吉備国(2) 穴国と鉄

若林 啓文

秋の歴史小話 藤ノ木古墳／西谷墳墓群／足利義昭

野母 寿子

現代社会に生かされている義倉

後藤 匡史

備陽史探訪の会NEWS 設立40周年を迎えて

「山陽新聞」備後版 2020年(令和2年)9月26日(土)

田口 義之

◆広島民俗 広島民俗学会

〒731-0211広島市安佐北区三入1-26-24 岡崎環方 TEL082-818-3497

1974年創刊 <http://fs-hiroshima.net>

◇94 2020.9 A5 104p 700円

第95回研究会並びに広島民俗学会令和2年度総会について	岡崎 環
福山広域圏【備後南東部】の特殊神事	尾多賀晴悟
『新尾道市史』編さん事業について	尾道市史編さん委員会事務局
たらいざり考	菅 信博
平田玉蘊が描く歳時記の絵解き	林 良司
平成26年8月 広島豪雨災害と香川勝雄の大蛇退治について	佐古 憲作
地域に眠る民俗資料―襖下張りから発見された帝釈富くじ	
	高柴順紀／正本真理子

◆みよし地方史 三次地方史研究会

〒729-4304三次市三良坂町三良坂2747 中畑和彦方 TEL0824-44-2753

1987年創刊

◇113 2020.12 A4 10p

寺町廃寺跡付近出土の瓦製土管

―三次市向江田町無量寺保管の筒瓦 上重武和／加藤光臣／松下正司

資料紹介

「文政二年 国郡志御編集下しらへ書出帳 豊田郡忠海町 村」(1) 立畑 春夫

◆わが町三原 みはら歴史と観光の会

〒723-0051三原市宮浦6-9-32 鈴木方 年3600円 FAX0848-63-9932

◇356 2020.11 B5 12p

今月の各地 デジタル社会への不安

松本 茂子

日本の牛と馬、交通の歴史(6)

三好 邦範

消えゆく三原の近代化遺産(5) 日本セメント

西村 雅幸

神明当屋帖 その一 より(5)

定森 總治

◇357 2020.12 B5 12p

三原城天主台に物見櫓を

下西 勝彦

日本の牛と馬、交通の歴史(7)

三好 邦範

消えゆく三原の近代化遺産(6) 初代三原消防署

西村 雅幸

神明当屋帖 その二 より(1)

定森 總治

山 口 県

◆山口県地方史研究 山口県地方史学会

〒753-0083山口市後河原150-1 山口県文書館内 TEL083-924-2116 1954年創刊

<http://www.ysflh.jp>

◇124 2020.11 A5 134p

長州藩における真宗寺院組合の形成—明林寺文書を手がかりに	上野 大輔
長州藩における一人称代名詞「僕」の使用	
一滝鶴台の用例を取り上げて	牛見 真博
薩長同盟考	相島 宏美
近代捕鯨発祥地、北浦・仙崎と日本遠洋漁業株式会社	内田 鉄平
山口県における保健婦事業の形成過程	真木 奈美
『関門日日新聞』に見る戦時時日本へのユダヤ難民到来	
—一九三八年十一月～一九四〇年八月	菅野 賢治
小早川隆景旧臣の防長帰国	赤井 弥
奇兵隊士 藤岡三右衛門について	佐伯 隆
歴史と現代 幕末のコレラ大流行と吉田松陰の説く予防法	道迫 真吾
歴史散歩 山口市指定史跡「雲谷庵跡」について	丸本 華代
新刊紹介 周南市教育委員会「兄玉源太郎資料調査報告書」	川上 浩史
地方だより 大島地区(中野行真氏提供)／岩国・玖珂地区(松岡智訓氏・藤重豊氏提供)／熊毛地区(林芙美夫氏提供)／下松地区(田村梯夫氏提供)／周南地区(川上浩史氏提供)／山口地区(古賀信幸氏提供)／山陽小野田地区(徳重壽美雄氏提供)／美祢地区(藏本隆博氏提供)	

徳 島 県

◆徳島県立博物館ニュース

〒770-8070徳島市八万町向寺山 徳島県文化の森総合公園 Tel.088-668-3636

1990年創刊 <https://www.museum.tokushima-ec.ed.jp>

◇120 2020.9 A4 8p

特集「文化の森30周年・県立博物館30周年を振り返って」

常設展全面リニューアルと「徳島まるづかみ展」	磯本 宏紀
徳島県立博物館 事始め	小川 誠
兵庫県南部地震の調査—これまでの仕事の中で、もっとも印象に残っていること	中尾 賢一
私と徳島県立博物館	井藤 大樹
待望の常設展リニューアル	天羽 利夫
新常設展プレビュー企画「徳島まるづかみ展」 ①徳島まるづかみ展・県央編 第1期／②徳島まるづかみ展・県央編 第2期／③徳島まるづかみ展・県西編／④徳島まるづかみ展・県南編	

愛 媛 県

◆いせき ニュースレター 遺跡発行会

〒791-2101伊予郡砥部町高尾田1108-3 そがめ塾気付 FAX089-905-2925

◇142 2020.8 A4 24p

伊予松山城築城初期の車郭石垣 西村直人／十亀幸雄

伊予松山城築城初期の車郭石垣 名本二六雄

北条の古墳(2) 櫛玉比売命神社古墳(下) 正岡 睦夫

◇143 2020.9 A4 20p

北条の古墳(3) 棕ノ原B地区 A-1・B-1墓 正岡 睦夫

矢穴のある伊予の有紀年銘石造物(1)

田ノ浦三界万霊塔と荒神社手水鉢 十亀 幸雄

◇144 2020.10 A4 28p

昭和初期の平城貝塚出土品の記録をめぐって—佐々木家所蔵の鶴久森

熊太郎の謄写版より 井出耕二／松本安紀彦／高梨修／川上晃生

付・参考資料 1924(大正13)年8月10日付け「吉田新規」より

平城貝塚と其示現せる文化 乾 城生

北条の古墳(4) 国津比古命神社古墳

付 棕之原15号墳・16号墳 正岡 睦夫

四国の舟形系水船(30)

久万高原町定徳寺跡水船—修験の金毘羅宮別当定徳寺(前半) 十亀 幸雄

◇145 2020.11 A4 28p

櫛玉比売命神社古墳と国津比古命神社古墳の調査 河原茂／正岡睦夫

愛媛県の漢式鏡(19) 西予市長作の森古墳出土の仿製小型内行花文鏡

名本二六雄

北条の古墳(5) 埋蔵堂古墳群

正岡 睦夫

四国の舟形系水船(31)

久万高原町定徳寺跡水船—修験の金毘羅宮別当定徳寺(中) 十亀 幸雄

◆伊予史談 伊予史談会

〒790-0007松山市堀之内 愛媛県立図書館内 1915年創刊

◇399 2020.10 A5 49p 750円

小特集 「遍路日記」の世界

近世後期における徳島町人の遍路日記—「四国順拝道中記」の紹介 井上 淳

天保五年山城国中畑村波多野富太郎の四国順拝 東 昇

書評 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編著『四国遍路の

世界』	岡本 佑弥
歴史余話 愛媛近代の伝染病	高須賀康生
新刊紹介 長井健【開催報告】 コレクション特別展「松山藩御用絵師列伝」、愛媛県歴史文化博物館編『研究紀要』、愛媛県歴史文化博物館編『資料目録第二八集 武家文書目録Ⅱ』、『日本近世生活絵引 琉球人行列と江戸編』	
郷土その日その日 自令和2年5月至令和2年8月	編集部(柚山俊夫)
例会記事 第1258回 地域文化誌「ジ・アース」と境界領域 岡崎直司氏、「愛媛の古建地区を訪ねて」の編集を振り返って 道後温泉本館の特徴と保存修理工事について 花岡直樹氏／第1259回 竹ノ下飛行場と拝志村 竹中義顕氏、南宇和郡愛南町の戦争遺跡 織田浩史氏、愛媛の防空監視哨3—大東亜戦争における民間防空の模様 多田仁氏	

福 岡 県

◆季刊邪馬台国 梓書院

〒812-0044福岡市博多区千代3-2-1 TEL092-643-7075 年5400円 1979年創刊

◇139 2020.12 A5 200p 1350円

巻頭言 対立と融和	編 集 部
-----------	-------

〈総力特集 その南に狗奴国あり 邪馬台国と対峙した狗奴国を追って〉

『魏志』が語る狗奴国と邪馬台国の所在地	小澤 毅
---------------------	------

「狗奴国＝肥後熊本説」 もっとも根拠が多く可能性の大きい説	安本 美典
-------------------------------	-------

近畿大和からみた狗奴国	関川 尚功
-------------	-------

狗奴国の原像～熊本県の遺跡から考える	松田 度
--------------------	------

狗奴国は日本国の起源	菊池 秀夫
------------	-------

狗奴国人の残影—クマソ・ハヤトと南九州の風土	荒竹 清光
------------------------	-------

狗奴国は熊襲国か？	内野 勝弘
-----------	-------

追悼 奥野正男氏、志村裕子氏を偲んで

惜別の記	安本 美典
------	-------

父、奥野正男 逝く	奥野かおり
-----------	-------

再掲 奥野正男氏論文 “旧石器捏造事件を追う” 神々の汚れた手
私の町の博物館(2)

岩手県 御所野縄文公園	峠 友香
-------------	------

新潟県 農と縄文の体験実習館「なじょもん」	佐藤 信之
-----------------------	-------

オトナ女子のコラム 晴れ、ときどき、古代史	藤江かおり
-----------------------	-------

新刊紹介 邪馬台国大和説は、成立しない!! 今年刊行された注目すべき本二冊 坂靖著『ヤマト王権の古代学』『おおやまと』の王から倭国の王へ／関川尚功著『考古学から見た邪馬台国大和説』 畿

内ではありえぬ邪馬台国 安本 美典
 自著を語る 『邪馬台国は別府温泉だった!』 酒井 正士
 神社仏閣、縁起めぐり(6)「高天原 日の宮」幣立神宮 編集部

佐 賀 県

◆末盧国 松浦史談会

〒847-0823唐津市旭が丘6-5 TEL0955-73-3549 年2000円 1962年創刊

◇223 2020.9 B5 20p

佐賀県重要文化財 銅鐘(朝鮮鐘) 唐津市鏡字山添 恵日寺 志佐 惲彦
 唐津・発掘・発見の話(11) 増田一行、親王塚を調査す 徳富 則久
 渡辺一郎先生と伊能図 「伊能図フロア展 in 唐津」の仕掛人 馬場 良平
 寺沢家臣沢木七郎兵衛について 寺沢 光世
 末盧國をめぐる古代史—末盧國以前(1)—玄界灘沿岸の縄文世界の展開

田島 龍太
 免状を読む一年貢はどのように取られたのか 山田 洋
 書籍紹介

漫画『西海一の水軍 松浦党』／岩松要輔氏『鳥原の乱と佐賀』 田中 好美

長 崎 県

◆浜木綿 五島文化協会

〒853-0052五島市松山町604-10 筑田俊夫方 TEL0559-74-2667

◇110 2020.11 A5 118p

大円寺五島家墓所に使用された石材 野村 俊之
 学びの象徴「大樹アコウ」 増田 常德
 ある偶然(4) 竹山 和昭
 旅の計画を駅で立てた日 石田ちとえ
 春から夏にかけて 大坪 昇平
 コロナ禍の短歌と俳句考 筑田としお
 『続日本紀』にみる天然痘の大流行に想う 櫻井 隆
 思い出することなど—少年時代・五島ゆかりの代議士・新聞人 内海 紀雄
 「平和道75年」を、更に長き(2) 片山 圭弘

五島列島の五島家の系譜を糺す

尾崎 朝二

コラム 石田城／福江座／「帰ろかな」／続 フェリー終便

(筑)

宮 崎 県

◆石の証言 「八紘一字」の塔を考える会

〒880-0026宮崎市波島2-30-2 佐藤文則方 年2000円 1995年創刊

<https://hakkouitiunotou.jimdo.com>

◇99 2020.11 A4 8p

石の証言 海南島松山部隊

塔建設80年祈念シンポジウム 「八紘一字」の塔をどうとらえるか？

シンポジスト 村上直巳さん・福田鉄文さん・関周一さん・迫立敏弘

さん（「八紘一字」の塔を考える会）

塔建設80年祈念シンポジウム 「八紘一字」の塔をどうとらえるか？

声明 菅義偉首相による日本学術会議会員の任命拒否に抗議し、その

撤回を要求する

税田啓一郎

菅政権の学術会員任命拒否は、行政権の乱用・法律違反！

野崎 眞公

沖縄戦と「黎明之塔」(2)

野崎 眞公

第30回ウォッチング「八紘一字」の塔

二枚の古写真

土岐 宗春

追悼 来住新平さん

鹿 児 島 県

◆徳之島町 町誌編さんだより 徳之島町誌編纂室

〒891-7101大島郡徳之島町亀津2918 徳之島町生涯学習センター 3階

徳之島町郷土資料館内 TEL0997-82-2908 2018年創刊

◇1 2018.5 A4 2p

新たな『徳之島町史(仮称)』の編さん、はじまる！

町誌編さん室を開設！！

町誌編さん審議会・編集委員会の委員を選定へ！

◇2 2018.9 A4 2p

町誌編さん審議会委員を委嘱。審議会会議を開催しました

奄美地区の自治体史編さん状況の視察を実施

◇別冊 2018.9 A4 4p

《「町誌」って何だろう？》

Q 1 「町誌」って何？／Q 2 編さんって何？／Q 3 どんなことが書かれているの？／Q 4 新しい『徳之島町史』ってどんな内容の本ができるの？／シマの歴史や自然について調べてみましょう

◇3 2018.11 A4 2p

町制施行60周年記念誌『徳之島町』が刊行！

町誌調査ノート

尾母集落のアキムチ(秋餅)と青年団の活動

東 慶久

町内の小・中学校で資料調査を実施しています

◇4 2019.2 A4 2p

町誌編集委員会委員(専門部会部会長)を委嘱。専門部会発足へ！！

『徳之島町史』本編の刊行に先立って、基礎資料集をまとめています

県立徳之島高校前田記念図書館から多くの郷土資料が保管される！

◇5 2019.5 A4 2p

『徳之島町史』の編集・調査執筆活動が指導します 徳之島町誌編集委員会委員長・近現代部会部会長 皆村武一(鹿児島大学名誉教授)

徳之島町誌叢書『「徳之島町史」基礎資料』〈非売品〉を刊行しました！

◇6 2019.8 A4 2p

シマ(集落)の暮らしの様子を教えてください！

町 健次郎

訃報 町誌編纂審議会委員の實田辰巳氏が逝去

◇7 2019.11 A4 2p

日常に息づいている大切なものを後世に伝えたい！

松村 大吾

各集落の聞き取り調査を実施しています！ 花徳集落、神之嶺集落

◇8 2020.2 A4 2p

地域に根差した町史を！

深澤 秋人

各集落の聞き取り調査を実施しています！ 金見集落

名誉町民 龍野定一先生のこと

◇9 2020.5 A4 2p

徳之島の環境と生物からの難問に、どう答えを出すか

—さあ、原稿を書くぞ！

服部 正策

ふるさとを誇りに思うココロを子どもたちに！—『徳之島町史 副読

本(仮称)』を通じて子どもたちに伝えたいこと

岩下 洋一

◇号外 2020.6 A4 4p

《特集 新たな「町誌」の刊行に向けて》

徳之島町の豊かな歴史・文化・自然の世界をお手元に！

新たな町誌を通じて、郷土の歴史と文化、自然、そして誇りを未来

の子どもたちへ

高岡 秀規

先史・古代・中世 最新の研究成果をわかりやすくお手元に！ 高宮 広土
 近世 近世地域に根差した町史を！ 深澤 秋人
 近現代 『徳之島町史』の編集・調査執筆活動が始動しています！ 皆村 武一
 民俗 シマ(集落)の暮らしからきらりと光る宝物を探して！ 町 健次郎
 自然 徳之島の豊かな自然を、国内へ、そして世界へ！ 服部 正策
 地域文化 日常に息づいている大切なものを後世に伝えたい！ 松村 大吾
 わたしたちが『徳之島町史』をつくっています！ 先史・古代・中世
 部会／近世部会／近現代部会／民俗部会／自然部会／地域文化部会
 『徳之島町史』の構成と刊行時期／「徳之島町誌叢書」シリーズ

◇10 2020.8 A4 2p

徳之島の「先史・古代・中世」

一島々に起こった文化現象の劇的な展開をどうとらえるか 高宮 広土

◇11 2020.11 A4 2p

半世紀ぶりの徳之島町誌編さん作業にご協力を！ 高城 博也

『広報 徳之島』12月号から、町誌の調査成果の一端を毎月紹介！！

／徳之島町誌叢書(2)『徳之島町域「農村調査」報告書』〈非売品〉
 が大好評いただいています！

沖 縄 県

◆宮古島市総合博物館紀要

〒906-0011宮古島市平良字東仲宗根添1166-287 TEL0980-73-0567

◇240 2020.9 B5 8p

9月定例会のレジュメ 吉野海岸沖海底遺跡の巡検

一海底に残された積荷(花崗岩)をめぐる 案内・久貝弥嗣

10月定例会のレジュメ 歴史の舞台・大浦を歩く 下地 和宏

宮古郷土史研究会 WEB版(ブログ)公開中

「宮古旧記」の世界を歩くなど提案一研究会設立四十五年の集いから 下地 和宏

歴史の舞台与那覇を歩く一八月定例会を終えて 下地 和宏

『首里の馬』一芥川賞受賞作と宮古馬 長濱 幸男

宮古島市指定文化財 史跡 来間川(泉) 久貝 春陽

山砲二八聯隊と幽霊漢字一楚野里山の『知野里壹の碑』

森谷大介／協力・山口直美

さどやま彩著『宮古諸島の歳時記』 仲宗根將二

◇241 2020.11 B5 8p

11月定例会のレジュメ

忠導氏仲宗根家を廻る一旧仲宗根氏庭園(国登録有形文化財) 案内・久貝弥嗣
忠導氏仲宗根家の清掃について

12月定例会のレジュメ 街並みに埋もれた漲水泊を見つける 事務局

9月定例会のまとめ 吉野海岸沖海底遺跡の巡検と今後の展望 久貝 弥嗣

「大浦多志城」から望む一歴史の舞台大浦を訪ねる 下地 和宏

地域の特徴ある埋蔵文化財公開活用事業 第2回

「海の歴史にふれる」—宮古島の水中文化遺産 久貝 弥嗣

沖縄県立博物館・美術館巡回展「手わざー琉球王国の文化」の紹介 與那覇史香

「旧西中共同製糖場跡」の復元模型について 久貝 春陽

「針路は宮古 虹を凱旋門にして」伊志嶺亮医師米寿記念 仲宗根將二

寄贈図書紹介

◆古文書解読集11

守谷古文書サークル編・刊(事務局:TEL0297-48-7523)2020年10月 A4 273頁
茨城県守谷市において市内に保存されている古文書の解読を中心に活動している
守谷古文書サークルの古文書解読集第11集。齋藤徳左衛門家文書(守谷市)から安
政7年(1860)「御用留」を、影印版と解読文・読み下し文、用語の解説を付して
収録する。主に、万延元年(1860)閏3月から12月分の江戸幕府・関宿藩の人事項
目20件余、貨幣関連7件、忌服4件、勅化3件、江戸城本丸関連4件、改元2件
の他、開港に伴う五品江戸廻令、外国人とのもめごと防止、行倒者、強風被災等々、
およそ20項目・60件余の文書を収録する。凡例／御用留(原文、解読文・読み下
し文、用語の説明)／あとがき

◆国の重要文化財指定への足跡 新聞記事にみる長久保赤水

平成30年9月5日～令和2年11月24日

長久保赤水顕彰会編・刊(〒318-0103 茨城県高萩市大能341 佐川春久

TEL0293-28-0405) 2020年12月 A4 60頁 非売品

地図・絵画類84点、文書・記録類279点、典籍類274点、書画・器物類56点で構成
される長久保赤水関連資料693点の国の重要文化財指定記念。既刊(25年8月2日～
30年8月23日、2018年9月刊)に続き、平成30年9月5日～令和2年11月24日の長久保
赤水関連新聞記事を収録する。

◆「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史

チバミージアムフェスタ2020～千葉県立美術館・博物館展覧会

千葉県立中央博物館編・刊(〒260-0852 千葉市中央区青葉町955-2 TEL043-265-
3111) 2020年8月 AB 31頁

千葉県立中央博物館において開催の「チバミージアムフェスタ2020～千葉県立美

術館・博物館展覧会～「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史」(主催：千葉県教育委員会)の展示解説書。千葉県出身者を中心にした体育教育黎明期から初期オリンピック、1940年の幻の東京オリンピック、1964年の東京オリンピックの状況を、貴重な資料とともに振り返る。近代スポーツの誕生／オリンピックとスポーツの広がり／1940年幻のオリンピック／1964年東京オリンピック・パラリンピックと千葉県／青木半治とオリンピック／1964年東京オリンピックから東京2020オリンピック・パラリンピックへ／千葉の匠／コラム オリンピックのマッチラベル／主な参考文献

◆品川区立品川歴史館特別展

広がる品川臨海部―新地開発から八潮地域の誕生まで

品川区立品川歴史館編・刊(〒140-0014 東京都品川区大井6-11-1 TEL03-3777-4060) 2020年10月 A4 143頁

品川区立品川歴史館の令和2年度特別展の展示図録。18世紀後半に海沿いの住民から始めた品川海岸部の埋め立て、近代以降の東京府による東京湾開港をめぐる動向、高度経済成長期以後における八潮地域の開発に焦点をあて、近世から近現代における品川臨海部の歴史を通覧する。プロローグ 江戸時代品川沿岸の風景／第1章 品川における埋め立てのはじまり(住民による埋め立て出願、品川町や東京府による埋立地造成)／第2章 東京港開港と品川(東京築港計画と横浜湊、東京港開港と品川埠頭)／第3章 八潮地域の誕生(大井埠頭と13号地、八潮団地)／エピローグ 八潮の風景―八潮地域センターの記録写真を中心に／特論 幕末維新期江戸東京の「港湾施設」(吉崎雅規)、昭和16年東京開港と臨海部の展開―隅田川河口部を中心に(増山一成)／付録 描かれ書かれた品川沿岸の記憶、品川の埋立地年表

◆日本の歴史を原点から探る―地域資料との出会い

シリーズ地方史はおもしろい02

地方史研究協議会編 文学通信(〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-35-6-201 TEL03-5939-9027) 2020年10月 新書判 270頁 1500円+税

地域を考えるうえで重要な資・史料に焦点をあてて、学際的な面白さを広める地方史研究協議会の創立70周年記念新シリーズの第2冊。地域資料と出会うために一本書の歩き方(廣瀬弘弘)／第1部 伝統文化を読み解くのはおもしろい 八瀬童子のひみつ―天皇側近の里人(宇野日出生)、阿波藍起源論の今(福家清司)、「凌雲閣(浅草十二階)」の煉瓦―煉瓦を考古学からみる(斎藤進)、東京近郊のレンガ産業を探る―地域資料発見の楽しさ(斉藤昭徳)、町の中の「御嶽山」―神社に関連する資料を中心に(乾賢太郎)／第2部 資料を読み込むのはおもしろい お上の絵図と地面の下から宿場を探る―絵画資料と発掘成果からみる東海道品川宿(寺門雄一)、大木戸はあったのか―地域の歴史を読み直す(中村陽平)、地域を

再認識する地誌の編さん—都城島津家の人々と「庄内地理志」(山下真一)、庄内・薩摩交流の始まり—明治初年、東京における庄内士族の情報収集(今野章)、地方文書からひもとく安政のコレラ(宮間純一)／第3部 歴史を再発見するのはおもしろい 武家の格式と威信材—関東公方葛西様と葛西城(谷口榮)、逆転した鯨ヶ尾城の大手と搦手—一定説を覆した高田藩士の日記(佐藤慎)、真宗末寺のしたたかさ—能登乗念寺直参への軌跡(石田文一)、鎌倉大筒稽古場の新田試作問題—「御鉄炮御場所」から読み解く(桑原功一)、焼け跡に手を差しのべた人々の記録—地域に残る戦後社会事業団体資料の価値(西村健)／第4部 教材として役立つ地域資料 『常陸国風土記』の魅力—茨城の古代史はおもしろい(久信田喜一)、寺に駆け込むということ—上州館林藩にみる入寺と寺訴訟(佐藤孝之)、壬申地券からみる地租改正(牛米努)、地域資料が歴史教育を今につなぐ—中学・高校・大学・市民講座と地域資料(藤野敦)／あとがき

◆丹沢・大山・相模の村里と山伏—歴史資料を読みとく

城川隆生著 夢工房 (〒257-0028 神奈川県秦野市東田原200-49 TEL0463-82-7652) 2020年9月 B6 160頁 1600円+税

日本の近代登山史に名を刻む武田久吉も注目していた丹沢・大山の山岳宗教の歴史と遺物。本書は、宗教思想史研究者である著者が各地に潜む原資料を渉猟して読み解き、中世まで遡る山伏の足跡と村里との関わりを再現する。はじめに／第1章 山岳修行の始まりと修行者の痕跡／第2章 丹沢・大山の地名と山伏／第3章 相模の国峰／第4章 山岳信仰と文化の伝播／第5章 大山不動と染屋太郎伝承／第6章 日向薬師の縁起と行基伝承／第7章 中世の山伏と山の寺／第8章 江戸時代の丹沢の縦走記録／第9章 丹沢山麓を訪れた山伏の記録／第10章 神仏分離と『新編相模国風土記稿』／あとがき／挿絵、参考文献・史料、写真・地図作成

◆第39回全国地名研究者利賀村大会資料集—越中・利賀の地名と風土

日本地名研究所編・刊 (〒213-0001 川崎市高津区溝口1-6-10 川崎市生活文化会館(てくのかわさき)4階 TEL044-812-1106) 2020年10月 A4 46頁

2020年10月10日・11日に開催された全国地名研究者利賀大会の講演・討論要旨を収録する。10日は富山県利賀芸術公園 利賀大山房、11日はエクスカッション(芸術公園劇場、瞑想の郷、西勝寺、柏倉合掌集落)見学。大会によせて(金田久璋)／記念講演 富山県の方言と地名—神通川・庄川流域のじゃがいもを中心に(中井精一)／五箇山紹介 五箇山の歴史と風土(之原大輔)／研究報告Ⅰ 富山県の「谷」地名を探る—富山県南砺市利賀村を中心に(森俊)／研究報告Ⅱ 五箇山と利賀の地名の由来(浦辻一成)

◆採集民俗論

野本寛一著 昭和堂 (〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町3-1 TEL075-502-

7500) 2020年11月 A5 707+16頁 7500円+税

日本の風土が育ててきた人と自然の絆、「採集」という素朴な営みを見つめ直す。前著『生きもの民俗誌』(2019年7月)と対をなす、日本中を歩いた環境民俗学者の集大成。序章 採集民俗学びの視座／第Ⅰ章 木の実(トチ、ナラ、カシ、シイ・マテバシイ、ブナ、クリ、クルミ、液果—ヤマブドウ・グミ・タブ、ソテツ)／第Ⅱ章 根塊・鱗莖(ヤマイモ、トコロ、クズ、ワラビ、キツネノカミソリ、キカラスウリ、ユリ科・もろもろの鱗莖—ユリ・カタクリ・スミラ・ウバウリ・ノビル、忘れられるイモ—ホドイモ・カシュウイモ・テンナンショウ)／第Ⅲ章 山菜・野草(ゼンマイ、山菜・野草の浄化力—シドケ・フキ・ヨモギ、山を下る山菜—オオギバボウシ・フキ・タラ・ワラビ・サンショウ、山菜諸景—ミズ・フジアザミ・イタドリ・クサギ)／第Ⅳ章 茸／第Ⅴ章 海岸と採集(イワノリ—能登輪島、ヒジキとマギー熊野串本、ヒシとイノの恵み—沖縄、イソモノとテングサ—伊豆)／第Ⅵ章 内陸小動物(はじめに、サワガニ、ヒキガエル、越冬民俗論の視座)／終章 旅の終わりに／あとがき／地名索引

◆特別展 古絵図の世界

宇治市歴史資料館編・刊(〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1 TEL0774-39-9260) 2020年9月 A4 48頁

宇治市歴史資料館の特別展の図録。昭和45年(1970)の『宇治市史』編さん開始から50年の節目を迎え、昭和59年(1984)の開館以来収集をつづけてきた古絵図・地形図資料のなかから、16年ぶりの公開となる宇治市指定文化財「宇治郷総絵図」をはじめとする多彩な絵図のコレクションを紹介する。はじめに／国を描く／地域を描く／名所を描く／国絵図にみる宇治の名所—橋姫、浮舟、扇芝(家塚智子)／宇治川の鮎漁をめぐる御用と運上(坪内淳仁)／特別寄稿 古地図にみる宇治の世界(上杉和史)／主な参考文献

◆収蔵資料調査報告書22 宇治茶の引札

宇治市歴史資料館編・刊(同上) 2020年3月 B5 59頁

宇治市歴史資料館が収蔵する資料の目録と解説からなる収蔵資料調査報告書第22冊。開館以来収集してきた宇治茶関係資料のうち約90点を数える引札を取り上げ、資料館収蔵資料23点、個人蔵7点、計30点の宇治茶の引札(価格表)について翻刻・公開する。宇治茶の引札(小嶋正亮)／宇治茶関係文献案内(小嶋正亮)／引札のなかの高級煎茶 碾茶の出物から玉露へ(坂本博司)／掲載資料一覧

◆第28回企画展 描かれた山崎合戦—秀吉・光秀と合戦後の変遷

大山崎町歴史資料館編・刊(〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎竜光3

大山崎ふるさとセンター内 TEL075-952-6288) 2020年10月 A4 40頁

大山崎町歴史資料館の令和2年第28回企画展の図録。大山崎の地で羽柴秀吉と明智光秀が激突した山崎合戦を取り上げ、『山崎合戦図屏風』や『絵本太閤記』な

どを通して山崎合戦と構成における捉え方を振り返り、合戦後の変遷をたどる。
ごあいさつ(福島克彦)／図録／解説 描かれた山崎合戦—秀吉・光秀と合戦後の
変遷(福島克彦) (羽柴秀吉と明智光秀、山崎合戦の全容、後世における合戦後の
変遷、天王山争奪の伝承)／資料解説／展示品目録／参考文献

◆講座・古代王権の興亡 第5回 日本の神話について(その2)

一津田左右吉の神代史研究 妙見山麓遺跡調査会紀要33

神崎勝著 NPOみょうけん (〒679-1214 兵庫県多可郡多可町加美区的場294
TEL0795-35-0555) 2020年10月 A4 18頁

NPOみょうけん(妙見山麓遺跡調査会)主催の新講座「古代王権の興亡」第5回
(2020年9月19日)の記録。神代史の概容(神代史の概容、神代史の構成、神代史の
成り立ち)／津田左右吉の神代史研究(神代史に関する主な旧説、津田左右吉の
記紀研究、津田左右吉の神代史研究の軌跡)／津田左右吉の神代史研究の主要な
論点(神代という観念について、帝紀・旧辞について、帝紀・旧辞の成立に関する
津田説、記紀の成立について)／まとめ—神代史に関する津田左右吉の論点(神
代史の成立について、帝紀と旧辞の成立について、記紀の成立について)／追記
／参考文献

◆講座・古代王権の興亡 第6回 日本の神話について(その3)

神代史の成り立ち—津田説の問題点とその検証 妙見山麓遺跡調査会紀要34

神崎勝著 NPOみょうけん (同上) 2020年11月 A4 20頁

新講座「古代王権の興亡」第6回(2020年10月17日)の記録。津田氏の神代史研究
とその問題点／神代史の核心／天孫降臨伝承における皇祖神アマテラスの役割／
天孫降臨神話とその原初形／神代史の成立／付論 豪族と神代史との関係につい
て／質疑応答／参考文献

◆穴戸左馬之助と豊七 長州藩の脇役たち

小池毅著 中央公論事業出版 (〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1
TEL03-5244-5723) 2019年2月 A5 127頁 1400円＋税

穴戸左馬之助、豊七、柏村信、井上馨、本間源三郎など、史料から浮かび上がる
幕末から明治にかけての長州藩の脇役たちの功績を綴る。はじめに／第一章 幕
末の長州藩(浦鞠負と穴戸九郎兵衛、元治期の長州藩、慶應期の長州藩)／第二
章 東京の長州閥(東京に移った毛利家および柏村信、井上馨とブレンたち)
／第三章 近代の山口県(土族授産の事業、山口県を動かした者たち)／資料
穴戸左馬之助関係資料、豊七関係史料、柏村信関係史料、井上馨関係文書／長州
藩の動き／本書に紹介した主な登場人物／参考文献／おわりに

◆現代語訳 上井覚兼日記

天正十年(一五八二)十一月～天正十一年(一五八三)十一月

新名一仁編 ヒムカ出版 (〒880-0954 宮崎県宮崎市小松台西1-3-5 TEL0985-47-

5692) 2020年10月 A5 238頁 1800+税

戦国島津氏の重臣 上井伊勢守覚兼(1545～1589)の日記で、東京大学史料編纂所「島津家文書」の一部として自筆原本27冊が所蔵され、国の重要文化財に指定されている『上井覚兼日記』のうち、老中・宮崎地頭時代の天正10年(1582)11月以降の部分を現代語訳・収録する。公務に関することから私的なことまで多岐にわたり詳細に記録した、地方の戦国武将の日常生活を知りうる貴重な史料である。はじめに／上井覚兼系図／天正十年あらすじ／天正十年 十一月、十二月／天正十一年あらすじ／天正十一年 正月、閏正月、二月、三月、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月／上井覚兼年譜／上井覚兼所在地／おわりに

◆それいけ！古事記すごろく

大館真晴監修 水元博子・絵 ヒムカ出版編集部・作 ヒムカ出版(同上) 2020年10月 1500円+税

高天原から出雲、日向へ、日本神話の旅を題材にしたすごろく盤。「わに」「しろうさぎ」「やたがらす」などの動物たちのコマとサイコロ、「建御雷神」「三種の神器」などの神様や秘宝の「開運の切り札」、すごろくに登場する全ての神様や名場面をダイジェストにまとめた解説『古事記すごろく手帖』をセットにした神話の世界の大冒険。

◆徳之島町 町制施行60周年記念誌

徳之島町役場(〒891-7192 鹿児島県大島郡徳之島町亀津7203 TEL0997-82-1111) 2018年10月 A4 72頁

昭和33年4月1日、亀津町と東天城村が合併による徳之島町の誕生60周年記念誌。両町村の合併申請書や両町村のデータ、当時の新聞記事のほか、「町のあゆみ」「町の自然」「記録写真」などを掲載し、合併当時の両町村の様子を再確認する。健康のまち宣言／徳之島町制施行発周年記念誌発刊に寄せて／町のすがた(沿革、空から見たわが町)／徳之島町の誕生(『徳之島町誌』から、「東天城村議会資料」から、地元紙『南西日報』から、町『広報誌』から)／町のあゆみ／資料編(人口・入込客・財政推移、歴代の町村長、歴代の議長、歴代の教育長、徳之島町の名誉町民)／徳之島の自然(故中村正弘氏撮影・寄贈)／記録写真／小中学生作文コンクール入賞作品

◆徳之島町域「農村調査」報告書―鹿児島高等農林学校学生調査

徳之島町誌叢書2

徳之島町誌編纂室編・刊(〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津2918 TEL0997-82-2908) 2020年1月 A4 200頁

昭和45年の『徳之島町誌』変身から半世紀を経て平成27年より着手された新『徳之島町史』編さん事業の一環として、『徳之島町史』本編(通史編・地域編・自然編)の編さん過程において収集された基本的な資料や聞き書き、調査報告、歴史

的史料のほか多岐にわたる諸資料などを広く紹介する徳之島町誌叢書。本書は第1集『『徳之島町史』基礎資料集』(2019年3月)に続く第2集として、旧鹿児島高等農林学校(鹿児島大学農学部の前身)に在籍していた学生諸氏が三年次に記した調査報告を収録する。徳之島町誌叢書の刊行にあたって／徳之島地図／行政区画の変遷／資料本文 嶺武雄著「鹿児島県大島郡東天城村調査」、福岡武著「鹿児島県大島郡亀津町」、付録「鹿児島県養蚕模範場 第四回練習生写真帳」／資料解題／調査協力者・機関一覧／徳之島町誌編纂関係者名簿(平成31(令和元)年度)

◆後記

元早稲田大学図書館員で書誌研究家の深井人詩さんが、2020年11月に85歳で急逝された。『書誌年鑑』('82～現在 日外アソシエーツ)をはじめとする数多くの書誌を世に送り、書誌編集の専門家集団である日本索引家協会を設立(1977年)して機関誌『書誌索引展望』の編集長(1979年～1982年)も務めた。遡ること1971年には、日本私立大学図書館協会に書誌作成分科会の設置を提案し、自ら世話人となって図書館員を指導し、1997年に早稲田大学退職後は文献探索研究会を立ち上げ、亡くなるまで旺盛な意欲で月例会を続けた。まさに書誌に生涯を賭けられたのである。書誌の分野で、これほどの方は、これから先も出てこないであろう。筆者が初めて深井さんの訃報に接したのは1978年の書誌作成分科会である。筆者が長く地方史誌の目録作りに携わるきっかけは深井さんから与えていただいたものである。当時名著出版の編集者であった岩田博さんから深井さんに、同社刊行の『増訂熊澤蕃山全集』と『新修平田篤胤全集』に参考文献目録を付す相談が持ち込まれ、その作成を筆者に仰せつけられた。お二人は旧知の間柄であった。この縁で、同社『月刊歴史手帖』連載の「地方史雑誌文献目録」も担当するようになり、それから40年余になるのだと思うと感慨もひとしおである。深井さんは研究分科会の若い図書館員に、それぞれの特性を考え、実践的な仕事をあてがって研鑽を積ませた。その意味でも稀にみる教育者であった。『地方史文献年鑑』は毎年謹呈してご批評いただいていたが、2019年版をお送りしたのはご逝去の直前で、見ていただけなかったのではないかと思う。残念で仕方がない。心より感謝の気持ちを捧げ、ご冥福を祈るばかりである。(飯澤)

地方史情報 147 2021年(令和3年)1月1日 発行

編集・制作 : 白鳥舎 hakucho@eris.ais.ne.jp

ウェブサイト公開: 岩田書院 <http://www.iwata-shoin.co.jp>

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103 TEL03-3326-3757

*本誌は、140号より、PDF版のみの発行です。